

豊郷町まち・ひと・しごと創生

人口ビジョン

平成 28 年 2 月

豊郷町

目次

第1部 人口ビジョン	1
序章 豊郷町人口ビジョンについて	2
(1) 豊郷町人口ビジョン策定の目的	2
(2) 設定などの方針	2
第1章 豊郷町の現状	4
(1) 豊郷町と滋賀県・全国の人口推移	4
(2) 人口の現状	5
① 総人口および年齢3区分別人口の推移	5
② 性別年齢別人口構成の推移	5
(3) 人口動態	6
① 自然動態(出生・死亡数)の推移	6
② 社会動態(転入・転出数)の推移	7
③ 性別・年齢階級別の人口移動	8
④ 地域別の人口移動の状況	9
⑤ 性別・年齢階級別の純社会移動率の推移	10
⑥ 自然動態と社会動態の比較	11
⑦ 総人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響	11
⑧ 他市町との流入・流出人口	12
(4) 雇用・産業・経済	14
① 経済活動別町内総生産	14
② 事業所数	14
③ 男女別・年齢階級別産業人口	15
④ 産業・雇用創造チャート	16
⑤ 産業別の交代指数	17
(5) 結婚・出産・子育て	18
① 結婚・離婚の推移	18
② 子ども女性比の推移	18

③ 合計特殊出生率の県内自治体との比較	19
(6) 世帯・地域・暮らし	20
① 世帯数と世帯人員	20
② 子どものいる世帯	21
③ 高齢者のいる世帯	21
(7) 観光・交流人口	22
① 他地域との比較	22
② 豊郷町訪問の目的	23
第2章 人口推計	24
(1) 将来人口推計	24
① ケース1: 社人研の推計に準拠した推計	25
② ケース2: 日本創成会議の推計に準拠した推計	27
③ ケース3: 2040年の合計特殊出生率が2.07となる場合	29
④ ケース4: 2040年の合計特殊出生率を2.07とし、社会移動なし	31
⑤ ケース5: 現出生率を維持し2060年に2.07を目標。社会移動を独自に仮定	33
⑥ 推計結果の比較	36
(2) 人口推計結果からの分析	37
① 性別年齢別人口構成の現状と15年後の予測	37
② 人口減少段階の分析	37
③ 将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響	38
④ 高齢人口比率の変化	40
(3) 人口の変化が地域の将来に与える影響	40
① 財政状況への影響	40
② 保育・教育への影響	41
③ 介護保険等への影響	42
第3章 人口の将来展望	43
(1) 現状のまとめ	43
(2) 人口の将来展望	44
① 将来展望	44
② 長期的な見通し	45
③ 総合戦略における基本目標について	45

第1部 人口ビジョン

序章 豊郷町人口ビジョンについて

(1) 豊郷町人口ビジョン策定の目的

「豊郷町人口ビジョン」は、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の趣旨を尊重し、豊郷町における人口の現状分析を行うとともに、人口に関して町民のみなさんと認識を共有して今後目指すべき人口の将来展望を示すものです。

同時に、その将来目標実現のための方策を定める「豊郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略」(2015～2019年度の5年間の計画)の基礎となるものです。

(2) 設定などの方針

● 人口推計の設定

本人口ビジョンにおける人口推計の設定は、国の示した2つの将来人口推計「国立社会保障・人口問題研究所(以下、社人研といいます)の設定に準拠」「日本創成会議の設定に準拠」に加え、豊郷町の独自の設定による推計を行ってます。

なお、社人研及び日本創成会議が行った推計は2040年までとなっています。

● 人口ビジョン設定の対象期間

対象期間は2015年から2060年までとします。

全体の期間を3つに分け、短期目標＝2020年、中期目標＝2040年、長期目標＝2060年として掲載します。

● 使用しているデータ

人口統計および将来推計は、国勢調査による数値を基本とし、必要に応じて住民基本台帳人口など町・県の統計データを使用しています。

- 「社人研推計」と「日本創成会議推計」について

本人口ビジョンに掲載している、国の示した2つの将来人口推計は、全国の移動率についての仮定が異なります。

「社人研推計」は、全国の移動率が今後一定程度縮小すると仮定した推計、「日本創成会議推計」は、全国の総移動数が、2010（平成22）～2015（平成27）年の推計値と概ね同水準でそれ以降も推移すると仮定した推計となっています。

- 社人研推計の概要

- ・主に2005～2010年の人口の動向を勘案し将来の人口を推計。
- ・移動率は、今後、全域的に縮小すると仮定。

<出生に関する仮定>

- ・原則として、2010年の全国の子ども女性比（15～49歳女性人口に対する0～4歳人口の比）と各市町村の子ども女性比との比をとり、その比が2015年以降2040年まで一定として市町村ごとに仮定。

<死亡に関する仮定>

- ・原則として、55～59歳→60～64歳以下では、全国と都道府県の2005年→2010年の生残率の比から算出される生残率を都道府県内市町村に対して一律に適用。60～64歳→65～69歳以上では、上述に加えて、都道府県と市町村の2000年→2005年の生残率の比から算出される生残率を市町村別に適用。（東日本大震災の影響が大きかった地方公共団体については、その影響を加味した率を設定）

<移動に関する仮定>

- ・原則として、2005～2010年の国勢調査（実績）に基づいて算出された純移動率が、2015～2020年までに定率で0.5倍に縮小し、その後はその値を2035～2040年まで一定と仮定。（東日本大震災の影響が大きかった地方公共団体や2010年の総人口が3,000人未満の市町村などは、別途仮定値を設定）

- 日本創成会議推計の概要

- ・社人研推計をベースに、移動に関して異なる仮定を設定。

<出生・死亡に関する仮定>

- ・社人研推計と同様。

<移動に関する仮定>

- ・全国の移動総数が、社人研の2010～2015年の推計値から縮小せずに、2035～2040年まで概ね同水準で推移すると仮定。社人研推計に比べて純移動率（の絶対値）が大きくなる。

第1章 豊郷町の現状

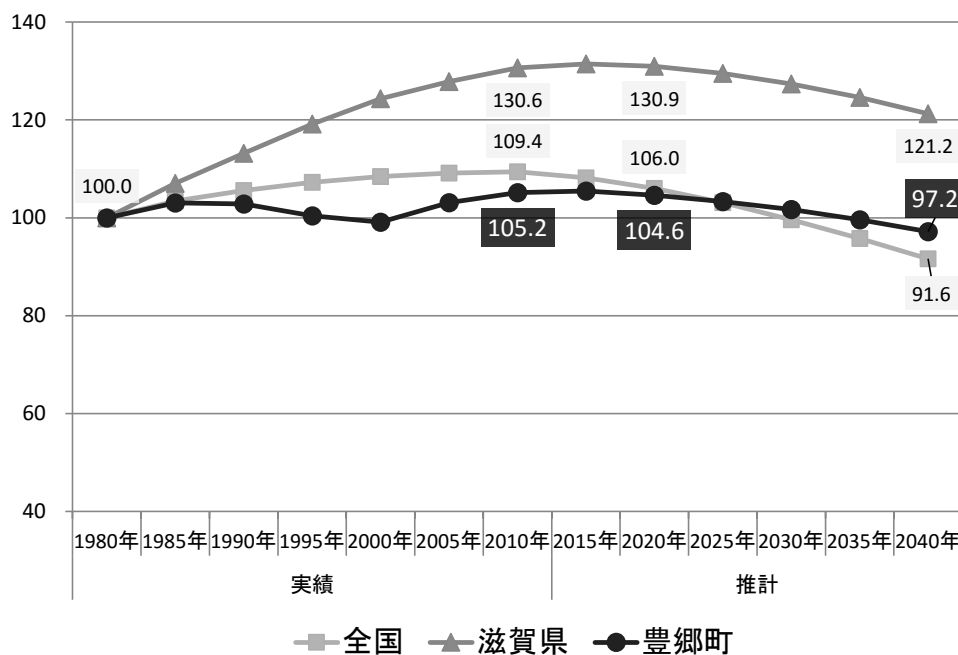
(1) 豊郷町と滋賀県・全国の人口推移

総人口実績と将来推計について 1980（昭和 55）年を 100 とした指数でみると、全国は 2010（平成 22）年に 109.4 ですが、滋賀県は 130.6 と全国を大きく上回ります。豊郷町は全国よりも少し下回り 105.2 となっています。

全国の人口は今後下降を続け、豊郷町も同様に下降していく予想ですが、全国よりも緩やかな下降となる見込みです。滋賀県も 2015 年をピークに下降に向かう予想です。

わが国では、戦後、高度経済成長期やバブル経済期を中心として地方から東京圏など大都市圏への人口移動が多くみられました。豊郷町では 1980～1985 年の、バブル経済期の前は人口が増加していましたが、バブル経済期は人口減少が続きました。その後 2000 年からは人口増に転じています。

● 豊郷町および国・県の総人口指数の推移と推計



(2010年までは国勢調査、2015年以降の推計は社人研による推計)

(2) 人口の現状

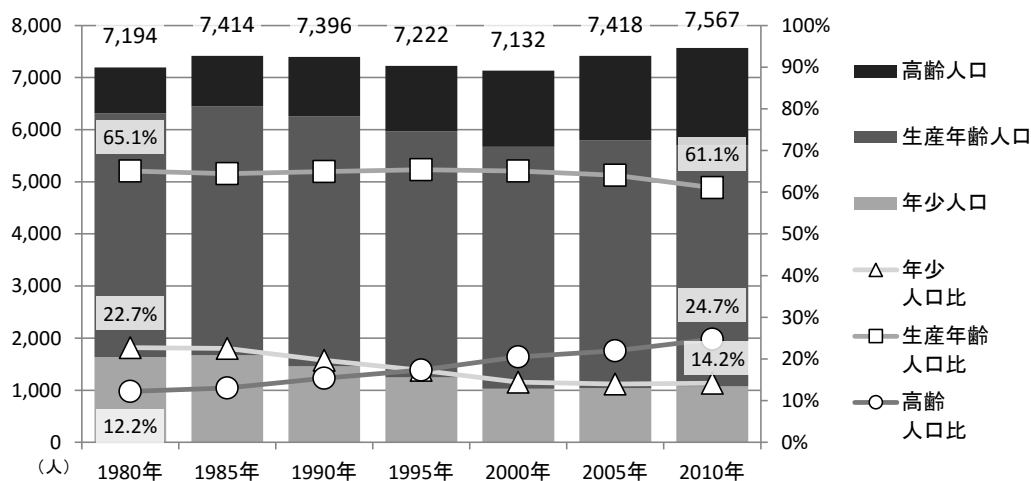
① 総人口および年齢3区分別人口の推移

総人口は1980(昭和55)年から2010(平成22)年まで多少の増減を繰り返しながら徐々に増加を続けてきました。

年齢構成では、1980年には、年少人口比22.7%、高齢人口比12.2%で年少人口比の方が大きかったものが、1995年にほぼ同水準となり、以降は高齢人口比が年少人口比を上回って、2010年までその差を少しずつ広げながら推移しています。

2010年の高齢人口比24.7%は、全国平均の22.8%よりもわずかですが上回ります。年齢構成の高齢化は生産年齢人口比が徐々に低下していることとあわせて、今後注視していく必要があります。

● 総人口と年齢3区分別人口および人口比率の推移



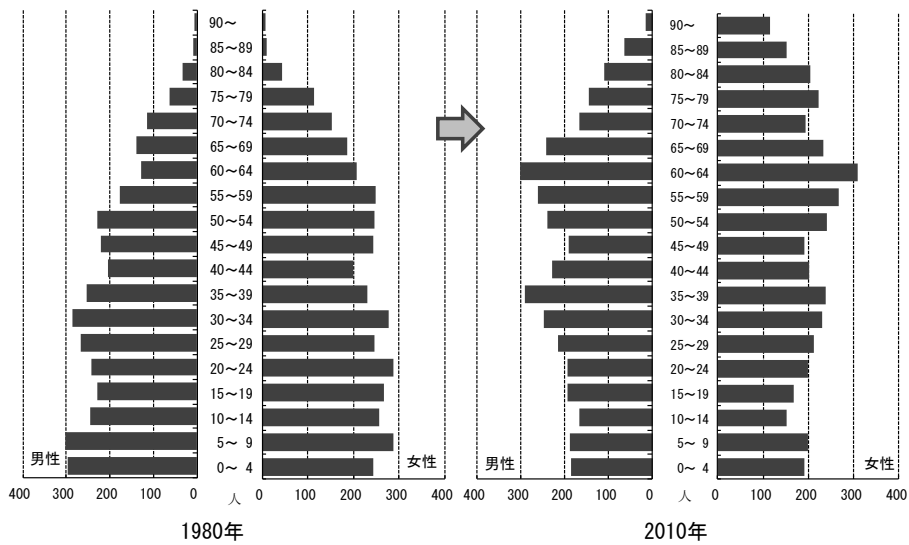
(国勢調査)

② 性別年齢別人口構成の推移

1980(昭和55)年と2010(平成22)年の性別年齢別人口構成をみてみます。1980年はいわゆる「つりがね型」で、人口が極端に増減せず安定するといわれる状態でした。団塊の世代となる30代前半と、その子世代(団塊ジュニア)の5~9歳や0~4歳が多くなっていたことがわかります。

2010年では、団塊の世代が60~64歳となり、男女ともに最も多い層となりました。いわゆる「つぼ型」に近く、14歳以下の人口の割合が低いこと、65歳以上の人口の割合が高いことから、少子化と高齢化が進行したことがわかります。

● 性別年齢別人口構成の推移(1980年と2010年の比較)



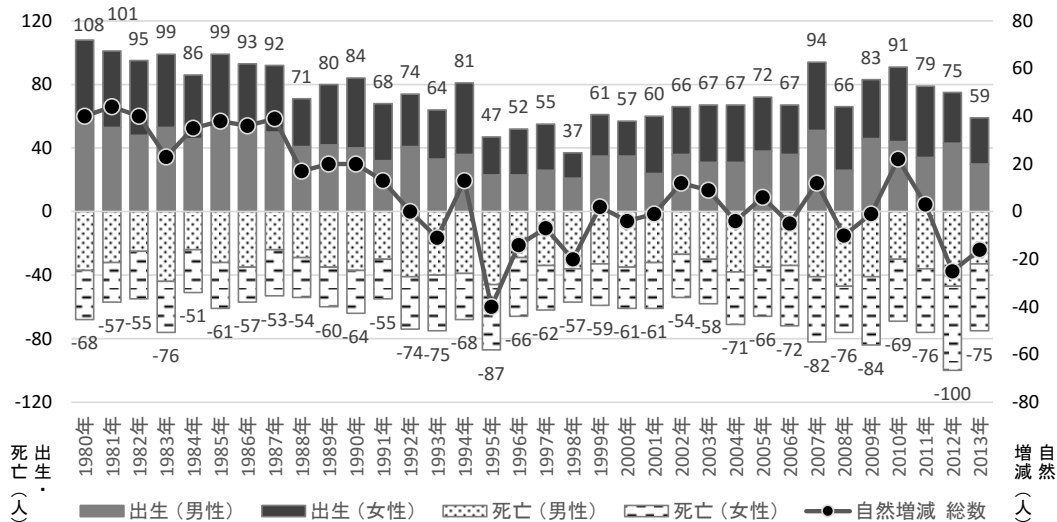
(国勢調査)

(3) 人口動態

① 自然動態(出生・死亡数)の推移

自然動態の推移では、1980(昭和55)年から1991(平成3)年まで自然増が継続していました。1993年以降は増減を繰り返しており、自然減となる年も多くみられるようになっていきます。高齢人口比率が微増の傾向にあることも要因の一つと思われます。

● 出生・死亡数の推移



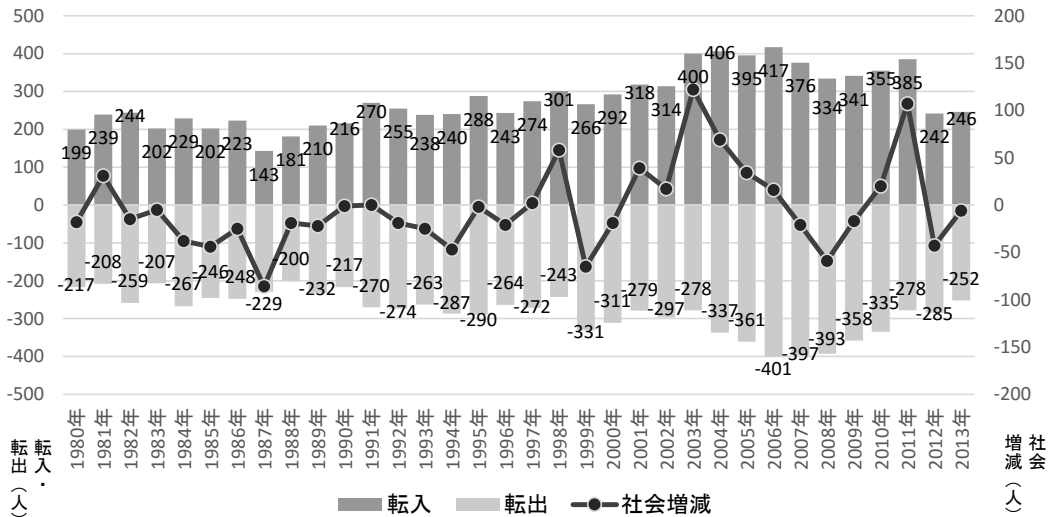
死亡・自然減はマイナスとして表示 (滋賀県統計書 前年10月1日～翌年9月31日)

② 社会動態（転入・転出数）の推移

社会動態の推移では、1996（平成8）年まで継続的に転出超過となっていました。1997年以降は年により社会増・減が入れ替わり起こりますが、全体に転入の方が多く、この間の増減のトータルではプラス254人（現人口の3%超）となります。

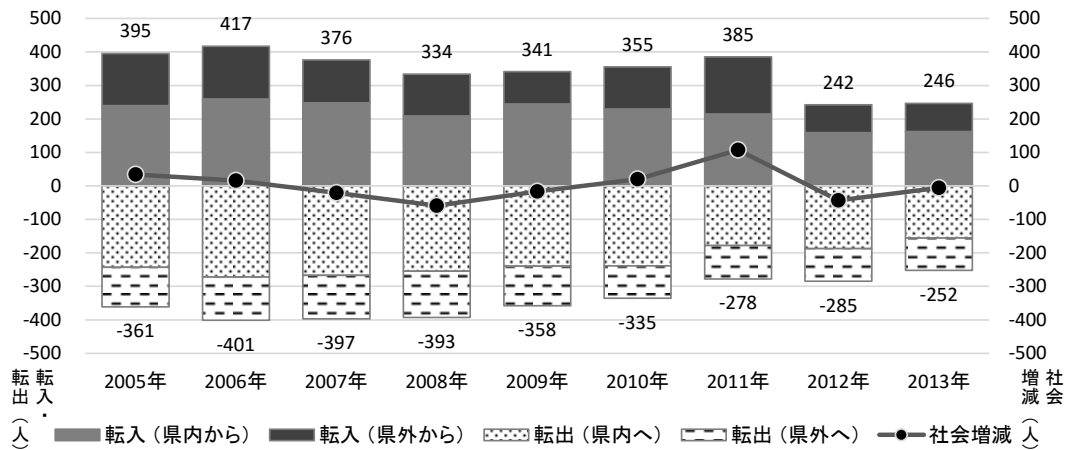
最近の移動状況を県内外別にみると、県外よりも県内の移動の方が多いことがわかります。

● 転入・転出数の推移



（滋賀県統計書 前年10月1日～翌年9月31日）

● 県内外別にみた人口移動の最近の状況



転出・社会減はマイナスとして表示（滋賀県統計書 前年10月1日～翌年9月31日）

③ 性別・年齢階級別の人口移動

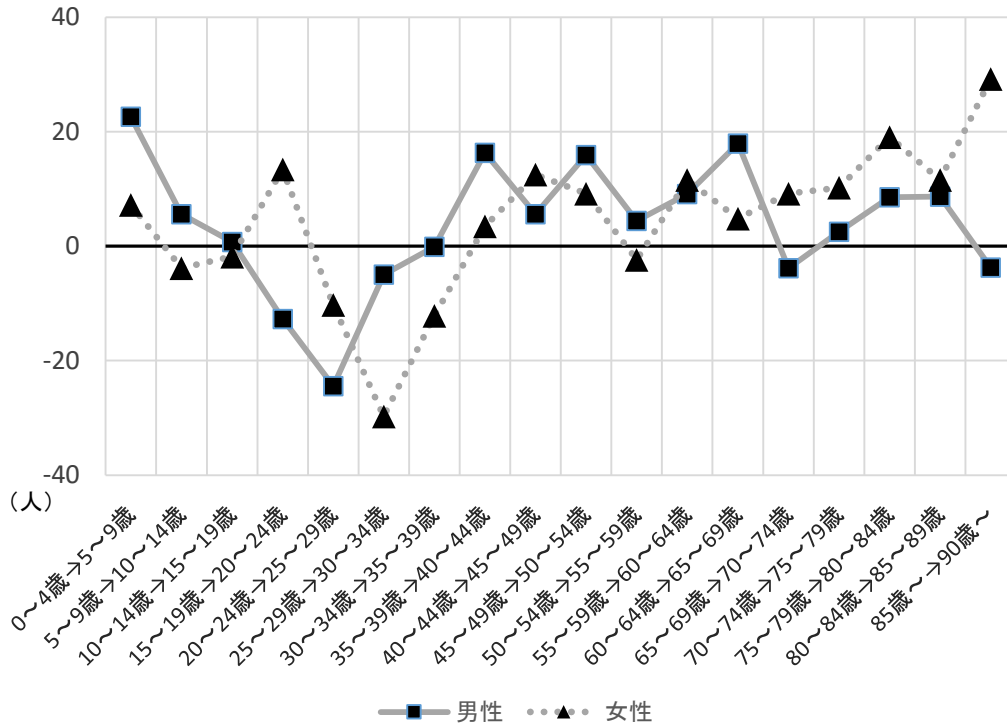
近年の人口移動数を性別・年齢階級別にみてみます。

男性は、20～24歳→25～29歳、次いで15～19歳→20～24歳に転出がみられます。前者は大学卒業または就職、後者は高校卒業後の大学等進学または就職に伴う転出が考えられます。

女性では、15～19歳→20～24歳で転入がみられます。町内にある公益財団法人豊郷病院附属看護学院への入学に伴うものとも考えられます。また、女性では20～24歳→25～29歳、25～29歳→30～34歳に多く転出がみられます。

男女とも、35～39歳→40～44歳より上の年齢層では、いくつかの例外を除いてほぼ転入超過で、0～4歳→5～9歳も転入超過となっており、ファミリー層の転入が考えられます。

● 2005年→2010年の性別・年齢階級別人口移動数

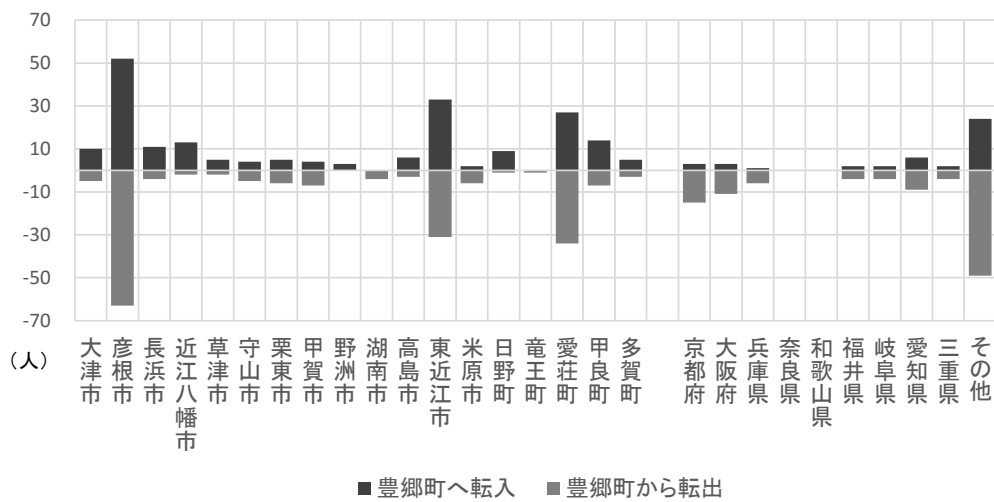


(国勢調査)

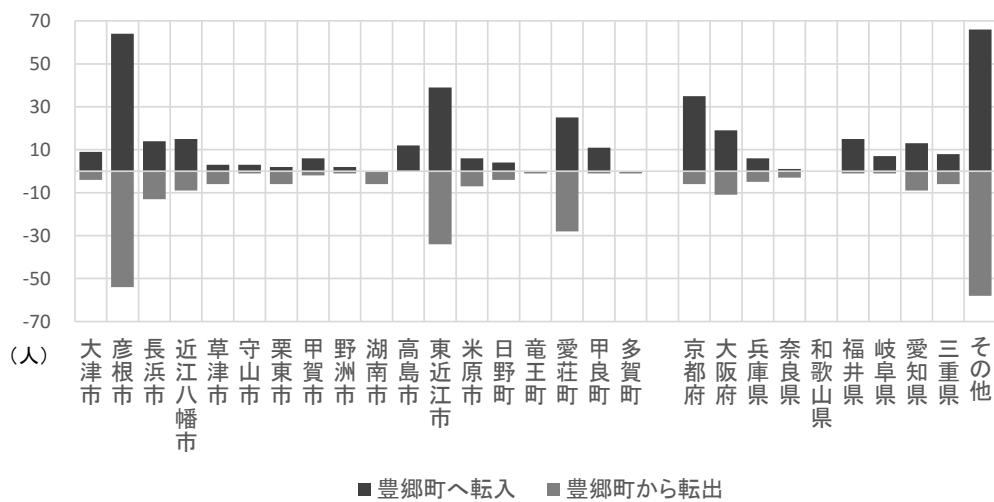
④ 地域別の人口移動の状況

豊郷町では、彦根市、東近江市、愛荘町との間で人口移動が多く、特に彦根市は「その他（関西や中部ブロックの一部以外）」よりも多くの移動があります。2014（平成 26）年は、長浜市、近江八幡市、草津市、高島市、日野町、甲良町、多賀町との間で転入超過がみられました。3 年前（2011 年）には、県外との移動が奈良県を除きすべて転入超過となっていました。2014 年にはすべて転出超過となっています。

● 地域別による人口移動の状況(2014 年)



● 地域別による人口移動の状況(2011 年)



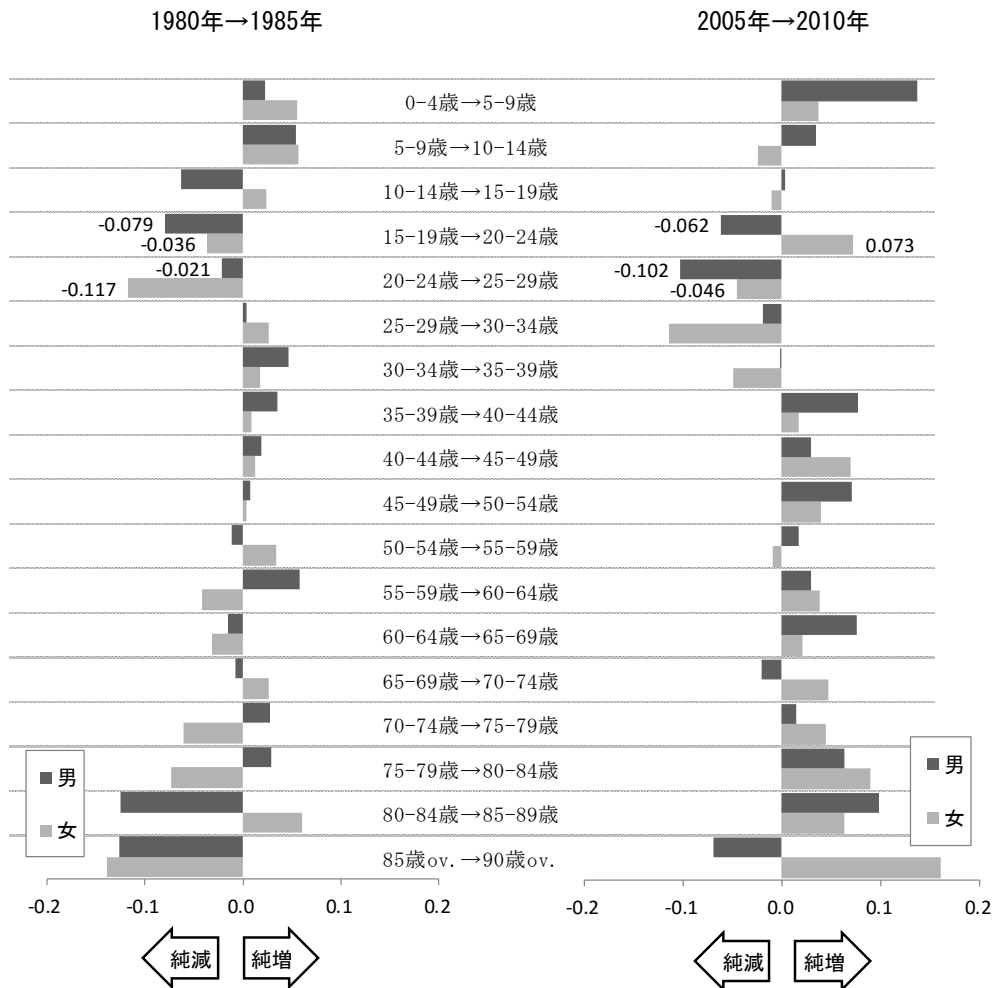
※転出者数はマイナスとして表示
(滋賀県推計人口年報)

⑤ 性別・年齢階級別の純社会移動率の推移

性別・年齢階級別の純社会移動率を30年前(1980年→1985年)と近年(2005年→2010年)で比較してみると、30年前にはみられなかった女性の「15-19歳→20-24歳」の流入が生じていることがわかります。1987年に、現在の公益財団法人豊郷病院附属准看護学院が現在地に移転をした影響も少なくないと思われます。また、生産年齢の中盤から後半とも言える35歳から54歳にかけて、男女ともに流入が生じています。さらに、30年前は流出の多かった高齢者も流入へと転じていることがわかります。

30代にさしかかる女性「25-29歳→30-34歳」の流出が以前より大きくなっていることは注視すべき点と思われます。

● 純社会移動率の変化(1985年と2010年)



(社人研 『日本の地域別将来推計人口』の指標より作成)

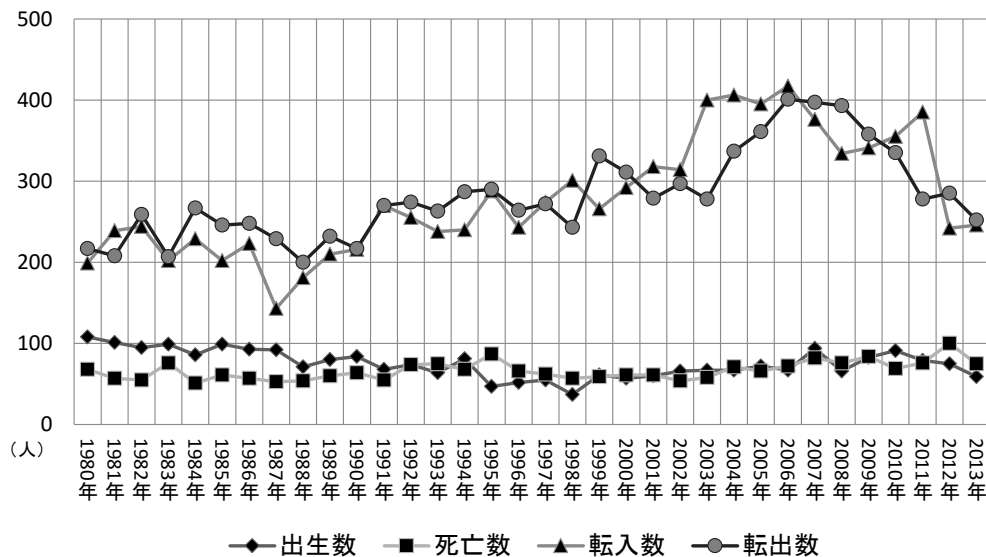
● 参考: 純社会移動率

5年の調査年次を隔てる期間に、転入者数から転出者数を差し引いた純増減数が期首コーホート人口に占める比率です。

⑥ 自然動態と社会動態の比較

出生・死亡数、転入・転出数の推移をみると、出生・死亡の規模は長期的にほぼ横ばいであるのに対して、転入・転出は規模が大きくなる傾向にあることがわかります。自然動態の2倍から4倍程度の人数が毎年動いています。

● 出生・死亡数、転入・転出数の推移



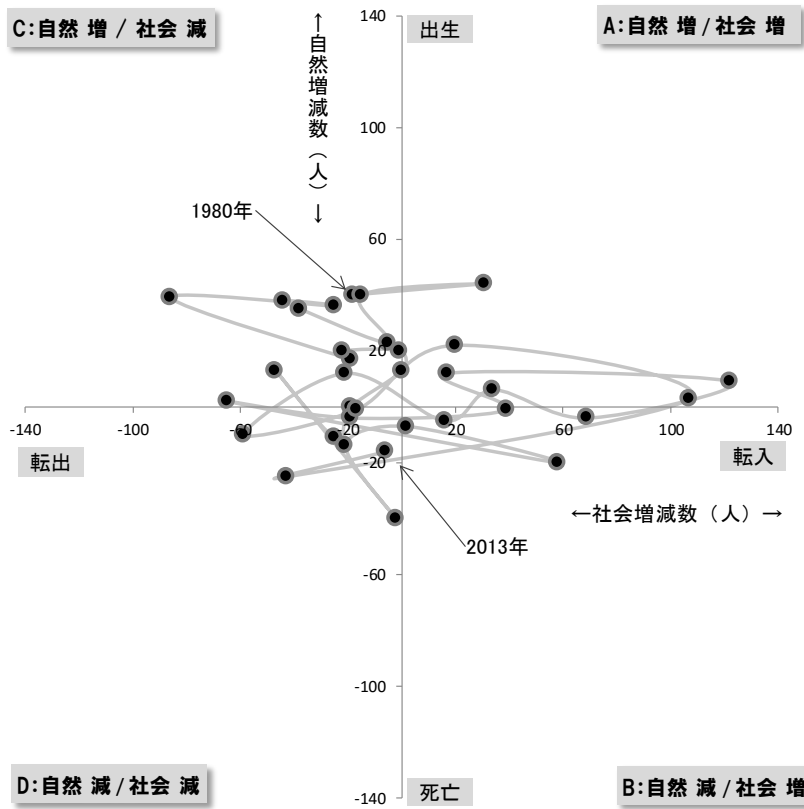
(滋賀県統計書 前年10月1日～翌年9月31日)

⑦ 総人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響

次頁の図で右上の領域にマークが多いほど人口増加、左下の領域にマークが多いほど人口減少の傾向が強くなりますが、豊郷町では、自然増減（タテの変動）も、社会増減（ヨコの変動）も、特に一定の規則性なく繰り返されていることがわかります。

ヨコの変動、つまり社会増減の幅が大きいことがここでもわかり、転出の抑制、転入の促進などの施策が人口減少への対応として重要であると考えられます。

● 総人口に与えてきた自然動態の増減と社会動態の増減の影響

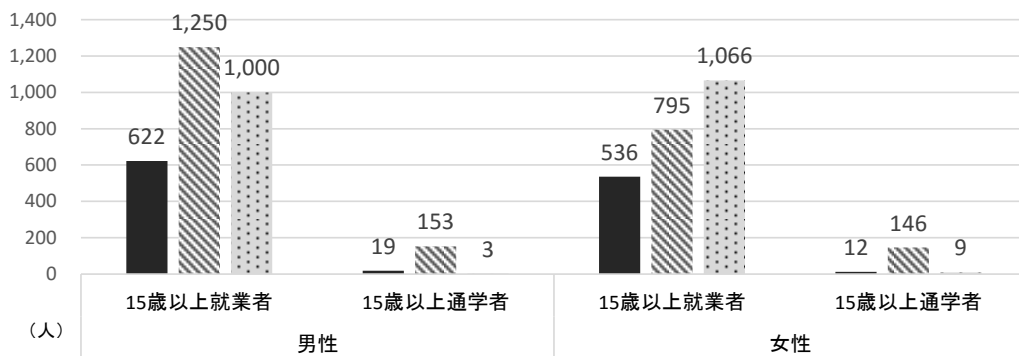


(滋賀県統計書 前年10月1日～翌年9月31日)

⑧ 他市町との流入・流出人口

国勢調査(2010年)によれば、豊郷町の昼夜間人口比率は「0.97」で、夜間人口よりも昼間人口の方がわずかに少ないということになります。男性は町外へ通勤する人が多く、女性は町外から豊郷町に通勤する人が多くなっています。

● 男女別15歳以上の、豊郷町から町外への従業・通学、豊郷町へ町外からの従業・通学



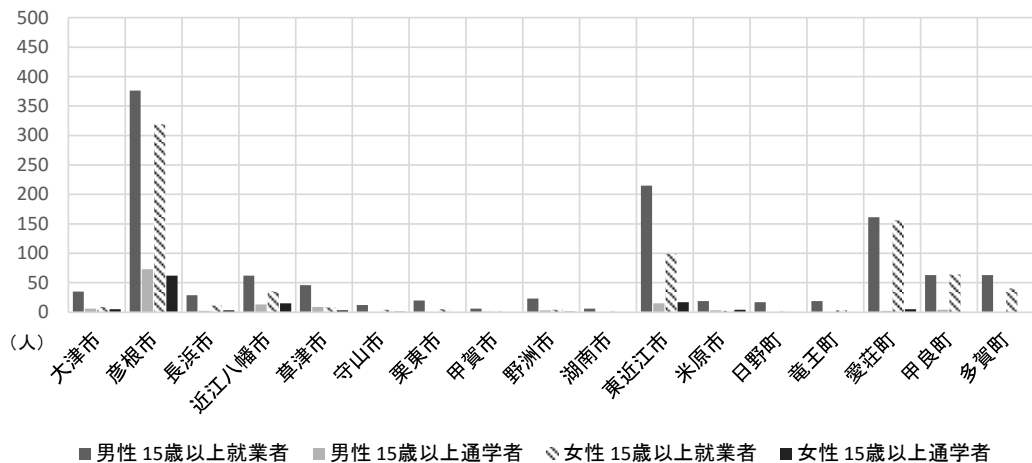
■ 豊郷町に住み町内で従業・通学 ▨ 豊郷町に住み他市町へ従業・通学 ▩ 他市町から豊郷町へ従業・通学
※就業地・通学地「不詳」を含む (2010年国勢調査)

豊郷町との間で通勤・通学の移動がある県内他市町の内訳をみてみます。

彦根市との関係では、男性が豊郷町から通勤に出て、女性が豊郷町へ通勤して来る傾向がわかります。また、東近江市や愛荘町、甲良町に住んでいる女性の豊郷町への通勤の多さなどもわかります。

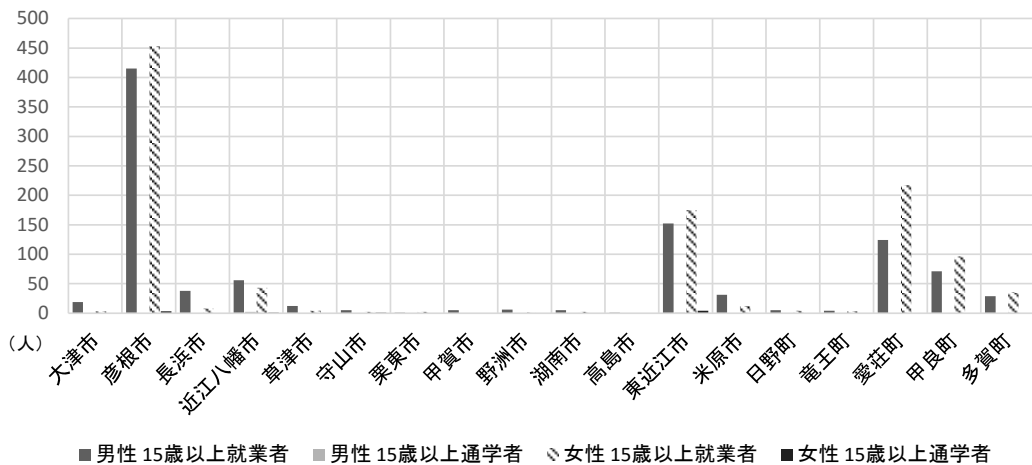
全体的に、豊郷町の事業所には町外から女性が多く集まっていることがうかがえます。

● 豊郷町から県内他市町への通勤・通学先



(2010年国勢調査)

● 常住地別、県内他市町から豊郷町への通勤・通学



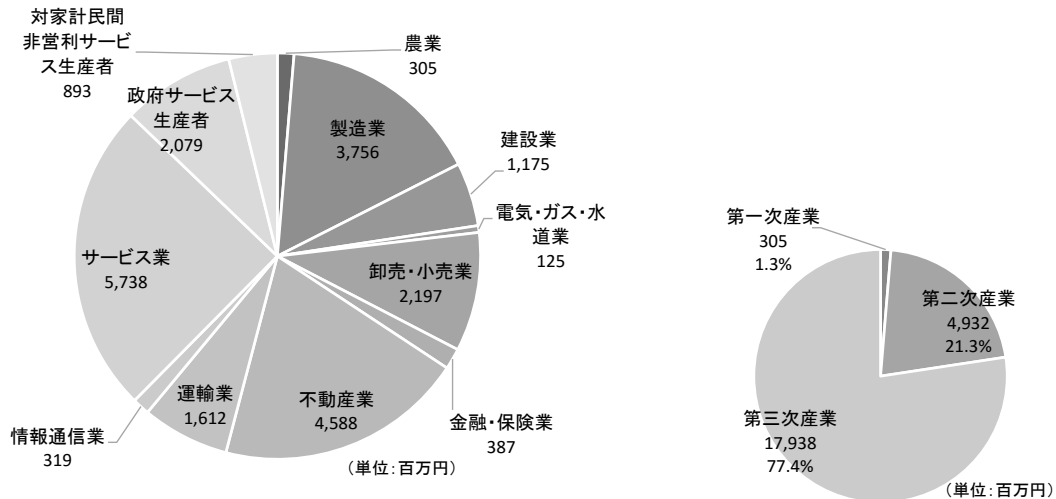
(2010年国勢調査)

(4) 雇用・産業・経済

① 経済活動別町内総生産

豊郷町の経済活動では、サービス業、不動産業、製造業の生産額が大きく、卸売・小売業、運輸業などがそれに続きます。生産額に第三次産業の占める割合は非常に多く、第二次産業の3.5倍以上となります。第一次産業の生産額は全体の約1.3%にとどまります。

● 2012(平成24)年度、経済活動別町内総生産

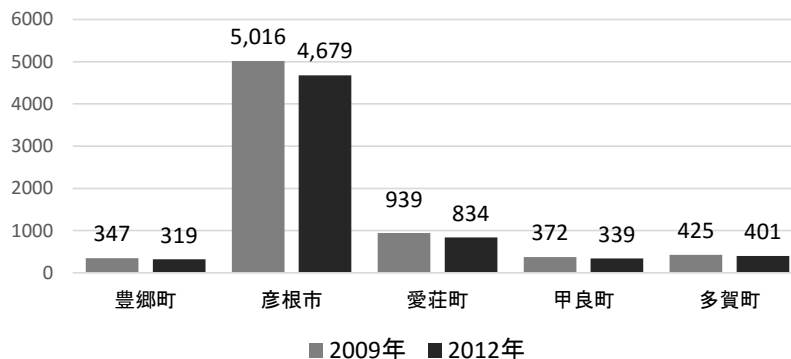


※林業、水産業、鉱業は0(無し)(滋賀県市町民経済計算 経済活動別市町内総生産 2012年度)

② 事業所数

豊郷町の実業所数は2009(平成21)年に347で、2012年には319(県内19位)となっています。周辺市町(彦根市および同市と湖東定住自立圏の形成に関する協定書を結んでいる町)でも減少しましたが、豊郷町は彦根市、多賀町よりも減少率が高くなっています。

● 事業所数の推移

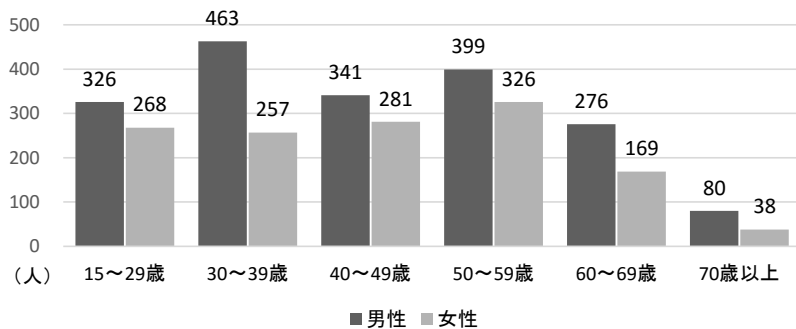


※すべての大分類(2009年経済センサスー基礎調査、2012年経済センサスー活動調査)

③ 男女別・年齢階級別産業人口

男性の就業者数を年齢層別にみると、30代、次いで50代が多くなっています。女性では50代が最も多く、次いで40代となっています。

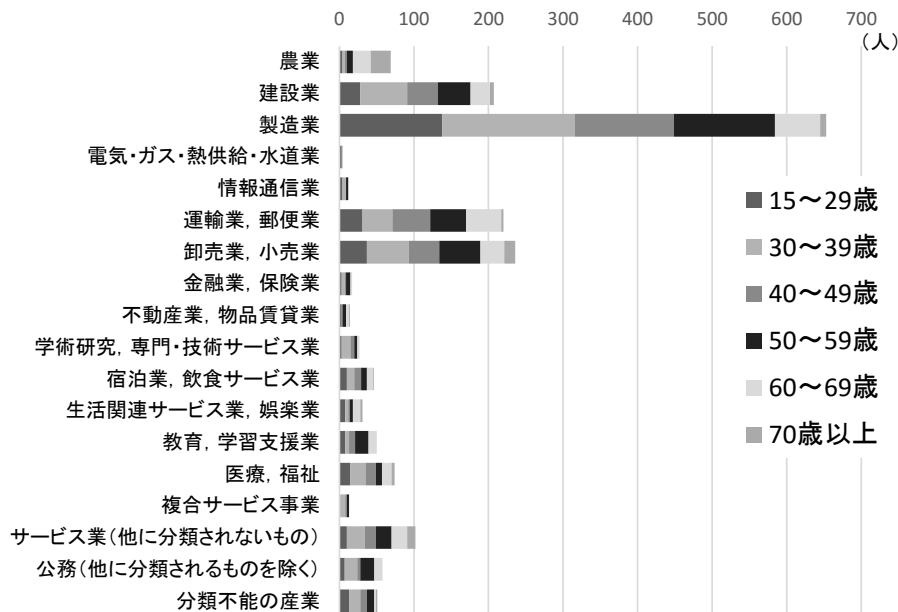
● 男女別就業者数



※林業、水産業、鉱業は少数のため除く（2010年国勢調査）

男性の就業者数を産業別にみると、「製造業」が最も多く、年齢構成は15～29歳から50～59歳までほぼ同数となっています。「農業」では60歳以上が多くなっています。

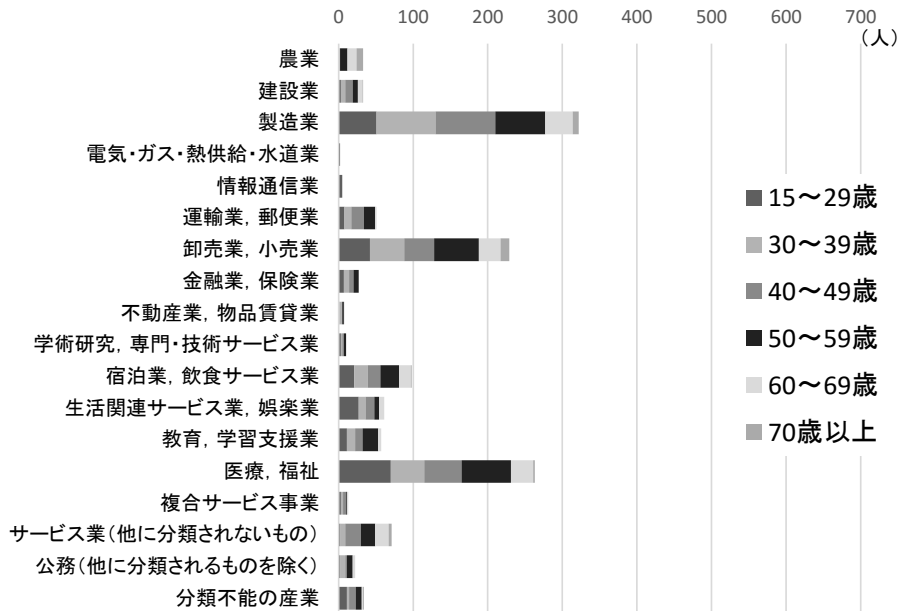
● 産業別・年齢階級別就業者数：男性



(2010年国勢調査)

女性の就業者数を産業別にみると、「医療，福祉」「宿泊業，飲食サービス業」が男性に比べて多くなっています。最も多い「製造業」の年齢構成は、男性よりも15～29歳の比率が低くなっています。

● 産業別・年齢階級別就業者数：女性



(2010年国勢調査)

④ 産業・雇用創造チャート

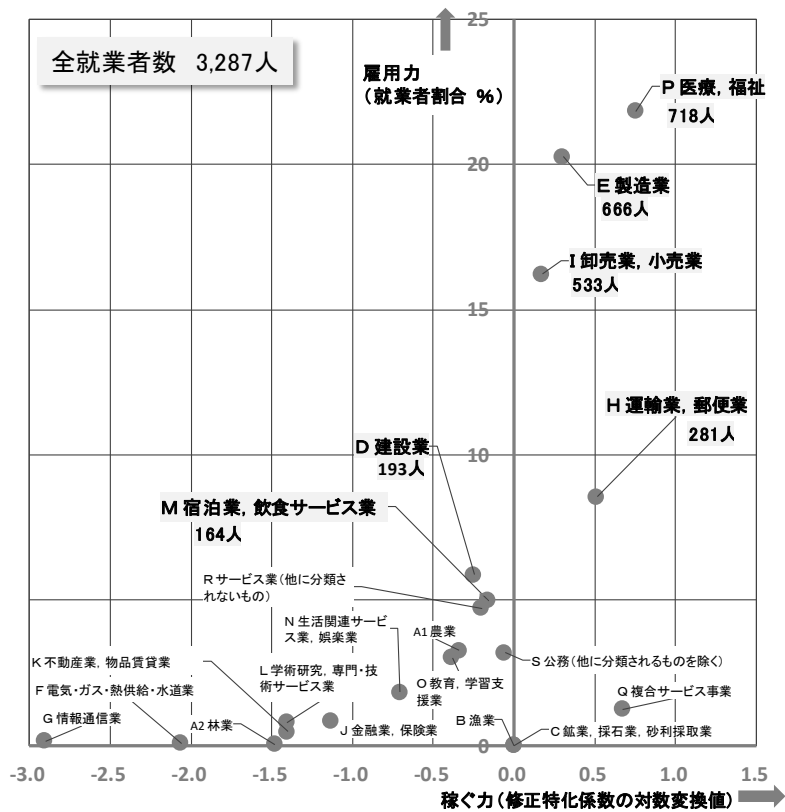
豊郷町の産業における雇用力（従業者割合）と特化係数をチャートで表してみます。

「医療，福祉」の特化係数が比較的高く、雇用力と合わせて町の仕事の多くを支える存在であることがわかります。また、「製造業」「卸売業，小売業」の就業者割合が高くなっています。

●参考：特化係数

例えば奈良県の林業従事者比率は約0.2%。これを日本全体の林業従事者比率(約0.08%)で割った値(約2.7)が奈良県の林業の特化係数となります。特化係数が「1」より大きい産業がその地域の基盤産業の目安とされています。

● 豊郷町の産業・雇用創造チャート(ラベル近接の数字は就業者数)



(総務省統計局「地域の産業・雇用創造チャート」より再作成)

⑤ 産業別の交代指数

就業者割合が上位5位までの産業と農業について「15～39歳の就業者数÷40～64歳の就業者数」の割合(交代指数と呼ばれます)を算出しました。交代指数が100を超えていれば、若年層の就業者数の方が高齢の層より多いため、おおよそ20年後までの担い手が確保されていると考えられます。「農業」は男女とも指数が低く、後継者の育成が課題です。

● 産業別、男女別就業者数と交代指数(2010年時点)

		農業	建設業	製造業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	医療、福祉
男性	15～39歳	7	91	316	71	93	35
	40～64歳	26	104	314	129	114	28
交代指数		27	88	101	55	82	125
女性	15～39歳	2	9	130	17	88	115
	40～64歳	17	21	175	33	116	133
交代指数		12	43	74	52	76	86

(人)

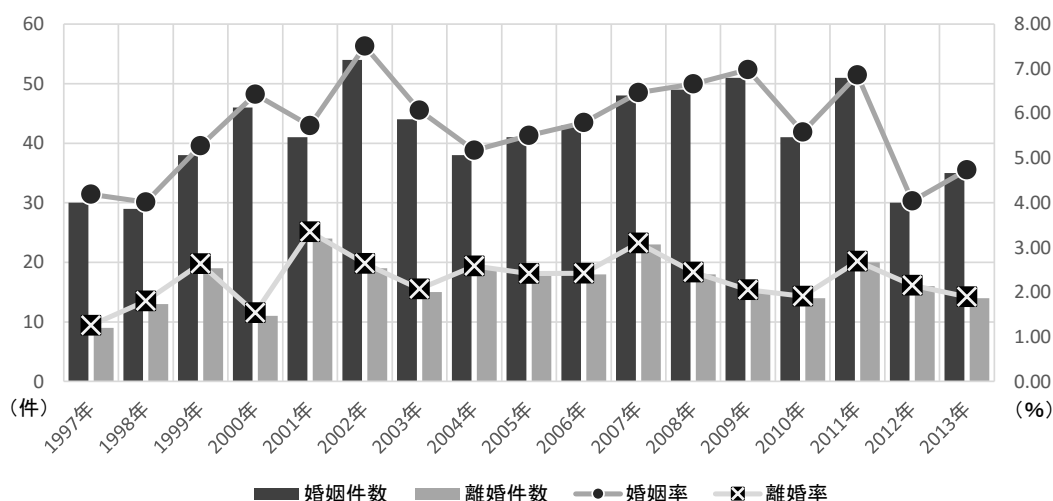
(5) 結婚・出産・子育て

① 結婚・離婚の推移

婚姻件数および婚姻率（千人あたり婚姻件数）は、1997年から2002年にかけて全体的に上向き、2004年にかけて下降、その後微増しましたが2012年、2013年は少なくなっています。厚生労働省による人口動態統計の年間推計（2015年1月発表）では、2014年における日本国内の婚姻率は5.2とされており、町の近年の婚姻率はこれを下回ります。

離婚件数および離婚率（千人あたり離婚件数）は各年で増減を繰り返しており、目立った上昇・下降の傾向はみられません。2011年以降は減少が続いています。

● 婚姻数、婚姻率、離婚数、離婚率の推移



(婚姻数・離婚数は滋賀県統計書 各年1月1日～12月31日、人口は住民基本台帳)

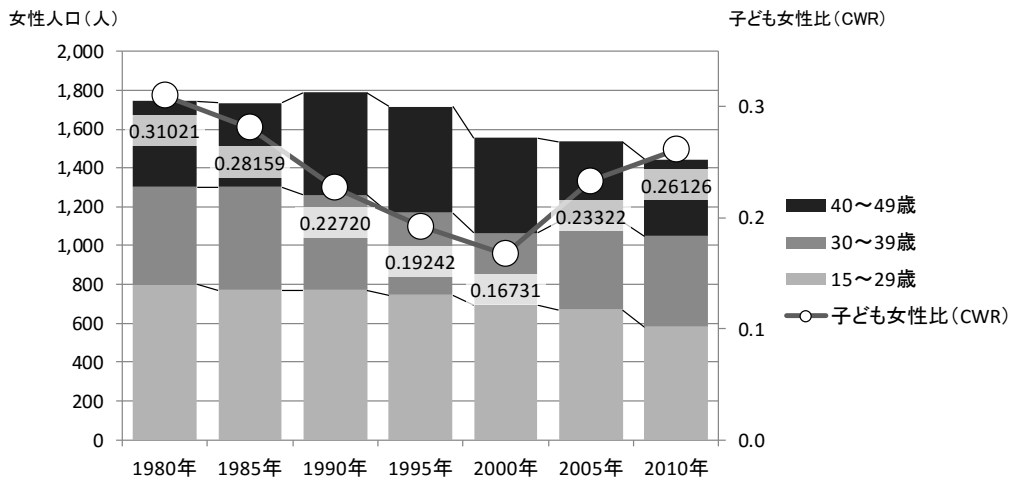
② 子ども女性比の推移

0～4歳子ども人口は、1980（昭和55）年の541人から2010（平成22）年の377人まで減少が続きましました。15～49歳の女性人口は1990年に一旦増加、以降は減少しています。

0～4歳子ども人口と15～49歳女性人口の比である子ども女性比（CWR）をみると、1980年から2000年までは減少し、2005年から上昇に転じています。

これは豊郷町の団塊ジュニア世代の女性（1980年に0～4歳、5～9歳だった層）が2005年頃に25～30歳、30～39歳となり、出産のピークを迎えたとも考えられます。

● 15～49 歳女性人口と子ども女性比の推移



(国勢調査)

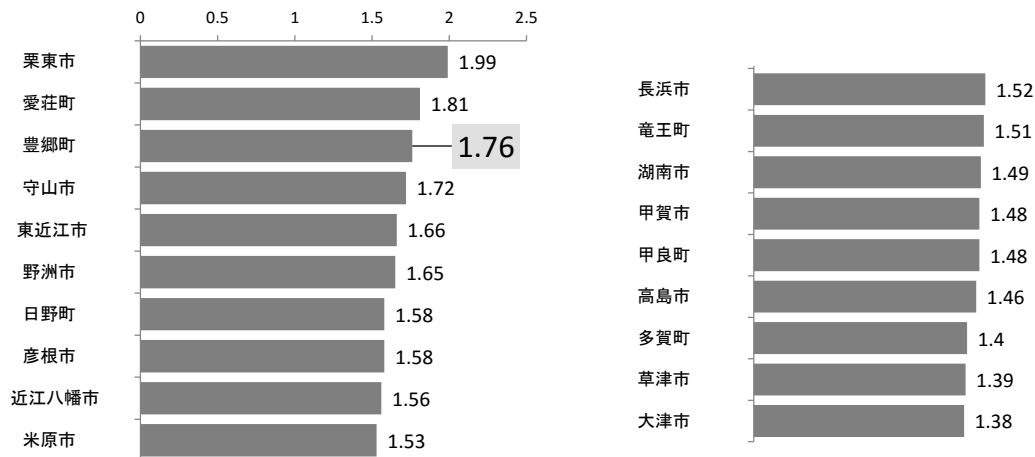
●参考: 合計特殊出生率と子ども女性比

合計特殊出生率(TFR:Total Fertility Ratio)と子ども女性比(CWR:Child Woman Ratio)は、いずれも出産年齢(15～49歳)女性人口における出生児数の比率の目安となる指標です。社人研による人口推計では、市町村の0～4歳人口について子ども女性比を用いて推計しています。

③ 合計特殊出生率の県内自治体との比較

豊郷町の2008(平成20)年から2012(平成24)年の期間における合計特殊出生率(ベイズ推定値=女性人口が少ない場合、出生率のバラつきを補正するため周辺の二次医療圏グループの情報を加味する統計手法)は1.76となっており、滋賀県内自治体では第3位となっています。同時期の全国の数値1.38も上回っています。

● 合計特殊出生率の県内自治体との比較



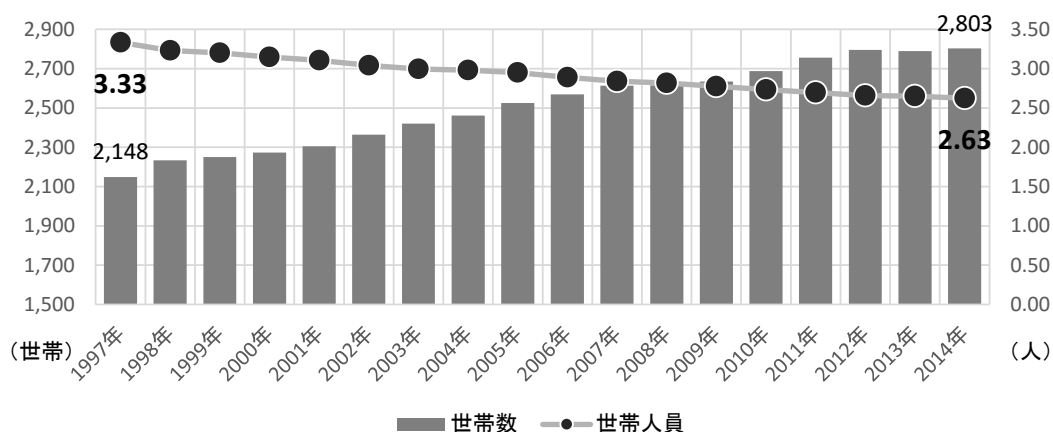
(厚生労働省 人口動態特殊報告)

(6) 世帯・地域・暮らし

① 世帯数と世帯人員

家族の人数は、出産・子育てや就労、高齢者の暮らしにも大きな関わりがあると考えられます。豊郷町の世帯数は1997（平成9）年の2,148世帯から2014（平成26）年の2,803世帯へと継続的に増加していますが、世帯当たりの人員は3.33人から2.63人へと減少を続けており、世帯規模が次第に小さくなっていることがわかります。

● 世帯数、世帯当たり人員の推移

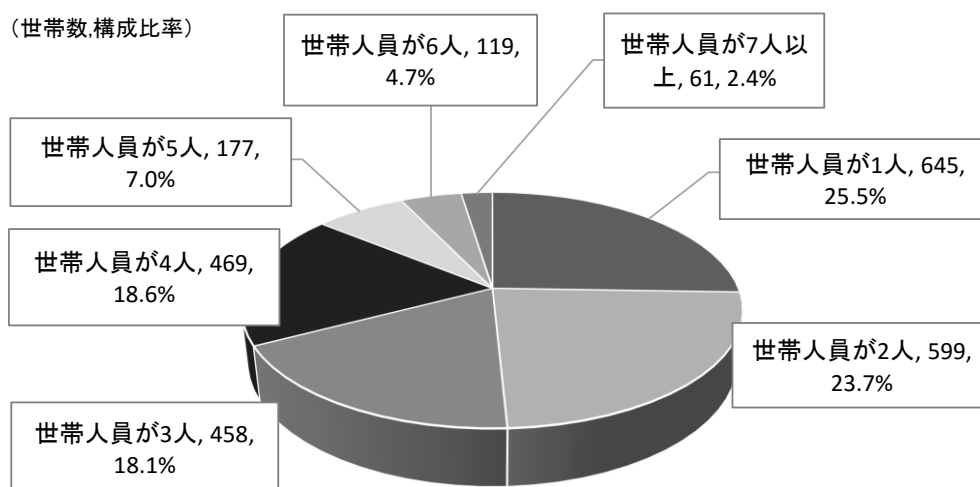


(住民基本台帳)

世帯人員別にみると、最も多いのは1人暮らしの世帯で全体の25.5%、次いで2人の世帯(23.7%)、4人の世帯(18.6%)、3人の世帯(18.1%)となっています。

● 一般世帯の世帯人員

(世帯数構成比率)



(2010年国勢調査)

② 子どものいる世帯

一般世帯総数 2,528 世帯のうち、6 歳未満のいる親族世帯数は 321 世帯（一般世帯の約 13%）、18 歳未満のいる親族世帯数は 723 世帯（一般世帯の約 29%）です。6 歳未満のいる親族世帯のうち、核家族世帯（親と子どものみの世帯）の割合は 7 割を占めています。18 歳未満世帯も概ね同様の割合です。

● 子どものいる世帯

	総数	核家族			核家族以外
		夫婦と子ども	男親と子ども	女親と子ども	
6歳未満のいる親族世帯数	321	204	2	11	104
構成比率 (%)	100.0	63.6	0.6	3.4	32.4
18歳未満のいる親族世帯数	723	405	10	68	240
構成比率 (%)	100.0	56.0	1.4	9.4	33.2

※単位:世帯 (2010 年国勢調査)

③ 高齢者のいる世帯

65 歳以上の世帯員がいる世帯数は 1,108(一般世帯の約 44%)、そのうち単独世帯数は 235 (一般世帯の約 9%) となっています。

75 歳以上の世帯員がいる世帯数は 632 で全体の 25.0%、85 歳以上の世帯員がいる世帯数は 198 で全体の 7.8%となっています。

● 高齢者のいる世帯

	総数	親族のみの核家族世帯	単独世帯
一般世帯	2,528	1,374	645
└うち 65 歳以上世帯員がいる世帯	1,108	464	235
└75 歳以上世帯員のいる世帯	632	197	139
└85 歳以上世帯員のいる世帯	198	50	38

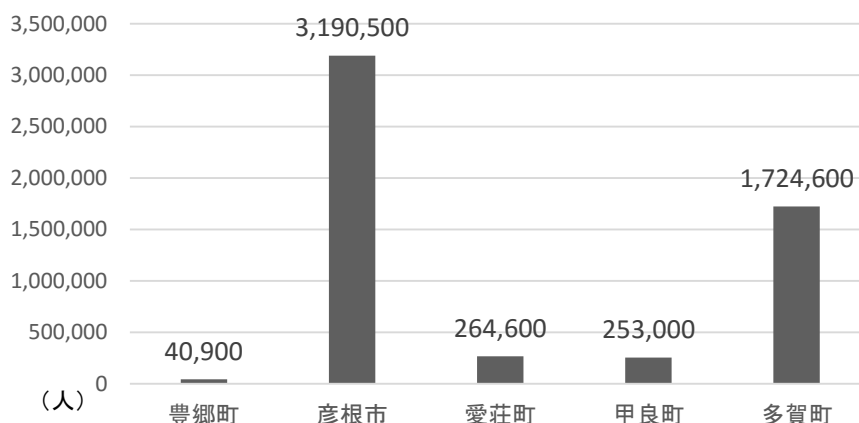
※単位:世帯 (2010 年国勢調査)

(7) 観光・交流人口

① 他地域との比較

豊郷町のある湖東地区の観光入込客数は県内で中位にあたりますが、その中で周辺市町と比較すると、豊郷町への訪問が少ないことがわかります。

● 市町別観光入込客数

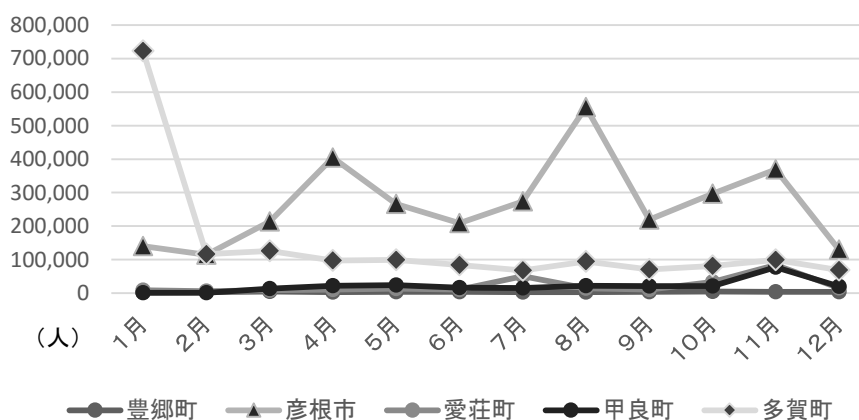


(2013年滋賀県観光入込客統計調査書)

※町の集計では豊郷小学校旧校舎群への2013年訪問者が上記に加え約3万人おり、同年の観光入込客数は総計で約7万人と考えられる。

月別にみると、三が日の参拝者が約49万人ともいわれる「多賀大社」のある多賀町の1月や、花見や夏季に人気の「城山公園」がある彦根市の4月・8月が非常に多く、観光資源の特徴によって市町を訪れる人の動きが変わることがわかります。

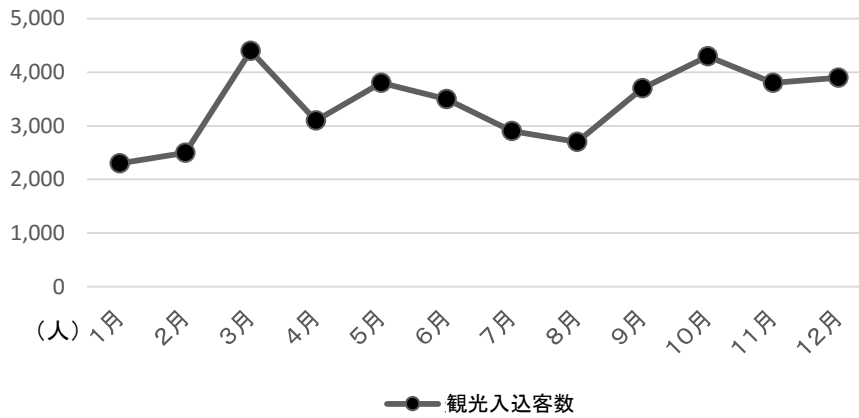
● 市町別・月別観光入込客数



(2013年滋賀県観光入込客統計調査書)

豊郷町の月別観光入込客数は3月・10月に比較的多くなっています。

● 豊郷町月別観光入込客数

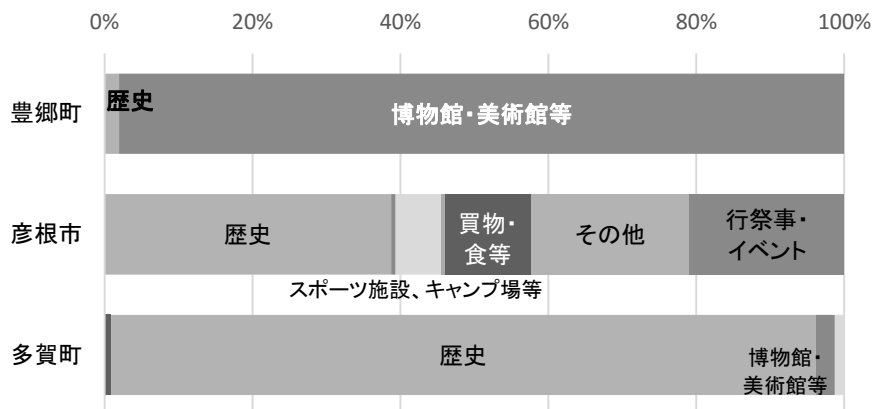


(2013年滋賀県観光入込客統計調査書)

② 豊郷町訪問の目的

観光目的を、観光客の多い彦根市、多賀町と比較してみると、豊郷町は「博物館・美術館等」が圧倒的に多く、他は「歴史」となっています。豊郷町への訪問目的が絞られていることが彦根市と比べてもわかります。

● 目的別観光入込客数の比率



(2013年滋賀県観光入込客統計調査書)

● 「豊郷小学校旧校舎群」の訪問者

本節の観光入込客は滋賀県の統計調査書に基づくものですが、豊郷小学校旧校舎群への訪問者数が忠実には反映されていないと思われます。町独自の集計では、豊郷小学校旧校舎群への訪問者が2013年に約3万人と推計され、同年の観光入込客は総計で約7万人であったと考えられます。

第2章 人口推計

(1) 将来人口推計

豊郷町の将来の人口目標を検討するために、以下の5ケースで人口推計を行いました。

ケース1は社人研による推計、ケース2は日本創成会議による推計に準拠したもので、その推計方法の概要や仮定は序章に掲載のとおりです。この2つの試算は町が独自に設定したケースの結果を評価する際の基準となるものです。

各試算ケースの前提となる設定内容は下表のとおりです。

	ケース名	出生率	生残率	純社会移動率	説明
基準推計	ケース1 社人研推計	社人研 仮定値	社人研 仮定値	社人研 仮定値	社人研「平成25年3月推計」を基にした推計。
	ケース2 日本創成会議推計	社人研 仮定値	社人研 仮定値	日本創成 会議 仮定値	純社会移動率が、社人研仮定値に対し日本創成会議オリジナルの係数を乗じたものとなっている。
独自推計	ケース3 出生率= 2040年に2.07	2040年時 点の出生 率を設定	社人研 仮定値	社人研 仮定値	2040年に合計特殊出生率を2.07(人口置換水準)まで上昇させた場合の設定。純社会移動率は社人研仮定値と同等。
	ケース4 出生率= 2040年に2.07 社会移動の転出を 抑制	2040年時 点の出生 率を設定	社人研 仮定値	移動なし	ケース3と同じく2040年の合計特殊出生率を2.07とする設定。 ただし社会移動について、近年転出超過の傾向にあるが、今後、転出を抑制、転入を促進し、プラスマイナス「0」(移動なし)と仮定。
	ケース5 出生率= 2030年以降2.07 社会移動は2030年 以降半減 2015年人口を独自 算定	2030年ま で1.83を 維持 2060年ま で2.07に 向け上昇	社人研 仮定値	2010→ 2015年の 住民基本 台帳移動 数を基に 仮定	2015年1.83(近似値)という、全国平均より高い出生率を2030年まで維持し、その後は2060年目標の2.07へ向けて上昇。 住民基本台帳の移動実績から、転入は2030年以降半減、転出も2030年以降半減。 2015年人口を独自に算定。

●本推計での過去の「合計特殊出生率」表示について

合計特殊出生率の算出は様々な方法で行われ、厚生労働省や保健所統計などによる発表もありますが、本推計では2010年までの数値は近似値で、豊郷町の子ども女性比に換算率(国のツールで示された2015年の子ども女性比から合計特殊出生率への換算率7.19476)を乗じたものを表示しています。

そのため、グラフや推計表に記載されているこれまで(1980～2010年)の合計特殊出生率が、他の推計や発表と異なる部分があります。ただし、2010年までの合計特殊出生率が他の発表等と異なっても、将来推計そのものには直接の影響はありません。

① ケース 1：社人研の推計に準拠した推計

●設定

【合計特殊出生率】=社人研の仮定値による。

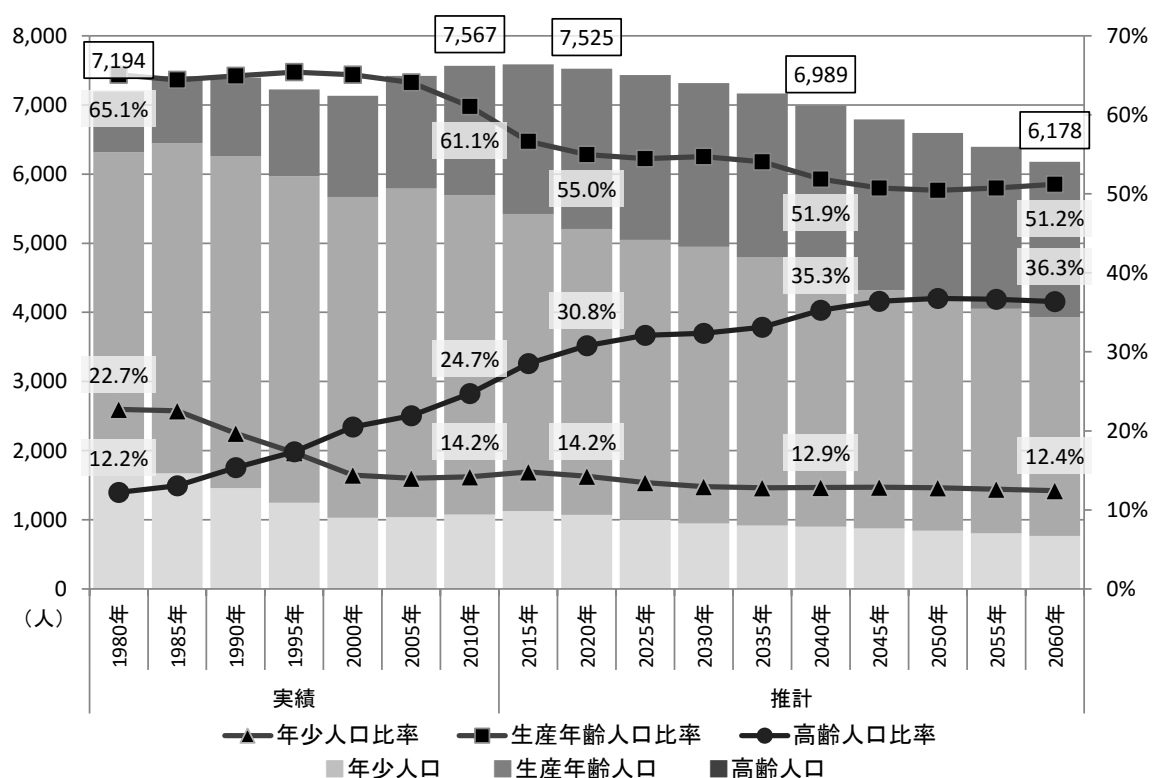
【生残率】=社人研の仮定値による。

【純社会移動率】=社人研の仮定値による。

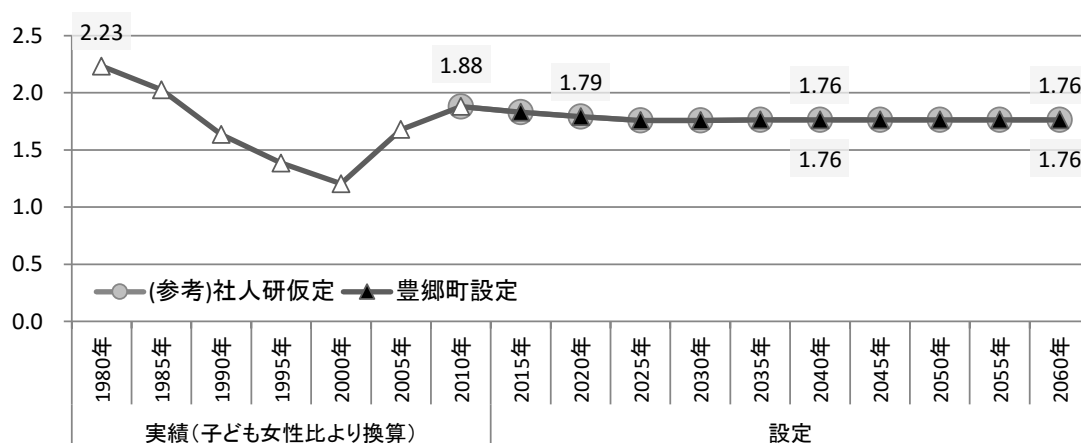
社人研の推計は、人口移動が今後徐々に収束していくという仮定になっています。社人研の推計に準拠した設定では、2020年の総人口は7,525人となります。

2040年には総人口が6,989人、2060年までの長期推計では6,178人となる予測です。

● 総人口および年齢3区分別人口比率



● 合計特殊出生率



● 推計結果

	総人口 (人)	年少 人口 (人)	生産年 齢人口 (人)	高齢 人口 (人)	年少 人口 比率	生産年 齢人口 比率	高齢 人口 比率	合計 特殊 出生率	
実績	1980年	7,194	1,634	4,682	878	22.7%	65.1%	12.2%	2.23
	1985年	7,414	1,670	4,776	968	22.5%	64.4%	13.1%	2.03
	1990年	7,396	1,457	4,803	1,136	19.7%	64.9%	15.4%	1.63
	1995年	7,222	1,246	4,723	1,253	17.3%	65.4%	17.3%	1.38
	2000年	7,132	1,028	4,642	1,462	14.4%	65.1%	20.5%	1.20
	2005年	7,418	1,038	4,753	1,627	14.0%	64.1%	21.9%	1.68
	2010年	7,567	1,074	4,621	1,872	14.2%	61.1%	24.7%	1.88
推計	2015年	7,588	1,123	4,299	2,165	14.8%	56.7%	28.5%	1.83
	2020年	7,525	1,072	4,137	2,317	14.2%	55.0%	30.8%	1.79
	2025年	7,432	999	4,047	2,386	13.4%	54.5%	32.1%	1.76
	2030年	7,315	946	4,003	2,366	12.9%	54.7%	32.3%	1.76
	2035年	7,166	919	3,873	2,375	12.8%	54.0%	33.1%	1.76
	2040年	6,989	898	3,625	2,465	12.9%	51.9%	35.3%	1.76
	2045年	6,791	873	3,445	2,473	12.9%	50.7%	36.4%	1.76
	2050年	6,595	844	3,327	2,424	12.8%	50.4%	36.8%	1.76
	2055年	6,395	806	3,244	2,345	12.6%	50.7%	36.7%	1.76
	2060年	6,178	768	3,165	2,246	12.4%	51.2%	36.3%	1.76

※1980～2010年の合計特殊出生率は豊郷町の子ども女性比実績から換算したもの

② ケース 2：日本創成会議の推計に準拠した推計

●設定

【合計特殊出生率】=社人研の仮定値による。

【生残率】=社人研の仮定値による。

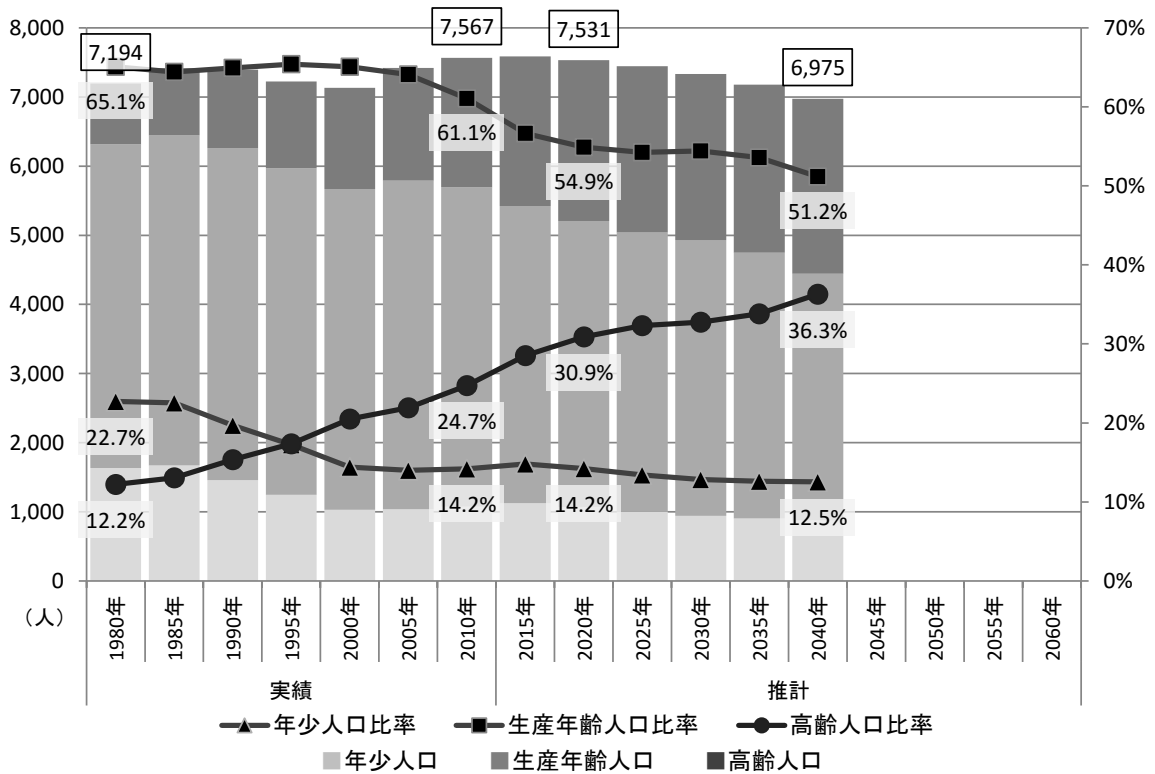
【純社会移動率】=日本創成会議の仮定値。社人研仮定値にオリジナルの係数が乗じられている。

日本創成会議による設定では、2040年までの推計しか行われていません。

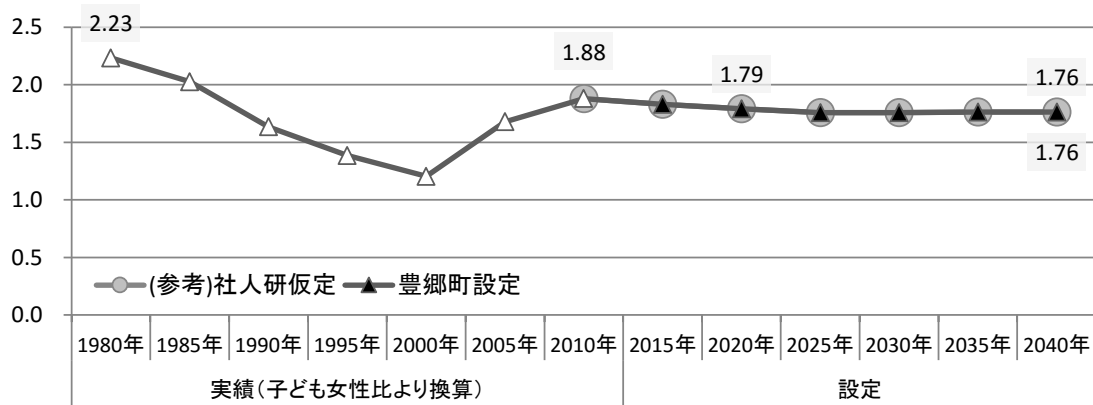
社人研による推計との違いは、社会移動について現在の人口移動の傾向がそのまま続いた場合の推計とされていることです。

その推計結果では、2020年の総人口は7,531人、2040年で6,975人となり、社人研の推計よりも短期では人口が多く、中期では少なくなります。

● 総人口および年齢3区分別人口比率



● 合計特殊出生率



● 推計結果

	総人口 (人)	年少 人口 (人)	生産年 齢人口 (人)	高齢 人口 (人)	年少 人口 比率	生産年 齢人口 比率	高齢 人口 比率	合計 特殊 出生率	
実績	1980年	7,194	1,634	4,682	878	22.7%	65.1%	12.2%	2.23
	1985年	7,414	1,670	4,776	968	22.5%	64.4%	13.1%	2.03
	1990年	7,396	1,457	4,803	1,136	19.7%	64.9%	15.4%	1.63
	1995年	7,222	1,246	4,723	1,253	17.3%	65.4%	17.3%	1.38
	2000年	7,132	1,028	4,642	1,462	14.4%	65.1%	20.5%	1.20
	2005年	7,418	1,038	4,753	1,627	14.0%	64.1%	21.9%	1.68
推計	2010年	7,567	1,074	4,621	1,872	14.2%	61.1%	24.7%	1.88
	2015年	7,588	1,123	4,299	2,165	14.8%	56.7%	28.5%	1.83
	2020年	7,531	1,072	4,133	2,326	14.2%	54.9%	30.9%	1.79
	2025年	7,445	999	4,039	2,407	13.4%	54.2%	32.3%	1.76
	2030年	7,332	940	3,990	2,401	12.8%	54.4%	32.8%	1.76
	2035年	7,177	904	3,845	2,427	12.6%	53.6%	33.8%	1.76
2040年	6,975	875	3,570	2,530	12.5%	51.2%	36.3%	1.76	

※1980～2010年の合計特殊出生率は豊郷町の子ども女性比実績から換算したものの

③ ケース3：2040年の合計特殊出生率が2.07となる場合

●設定

【合計特殊出生率】=2040年に2.07と想定。

【生残率】=社人研の仮定値による。

【純社会移動率】=社人研の仮定値による。

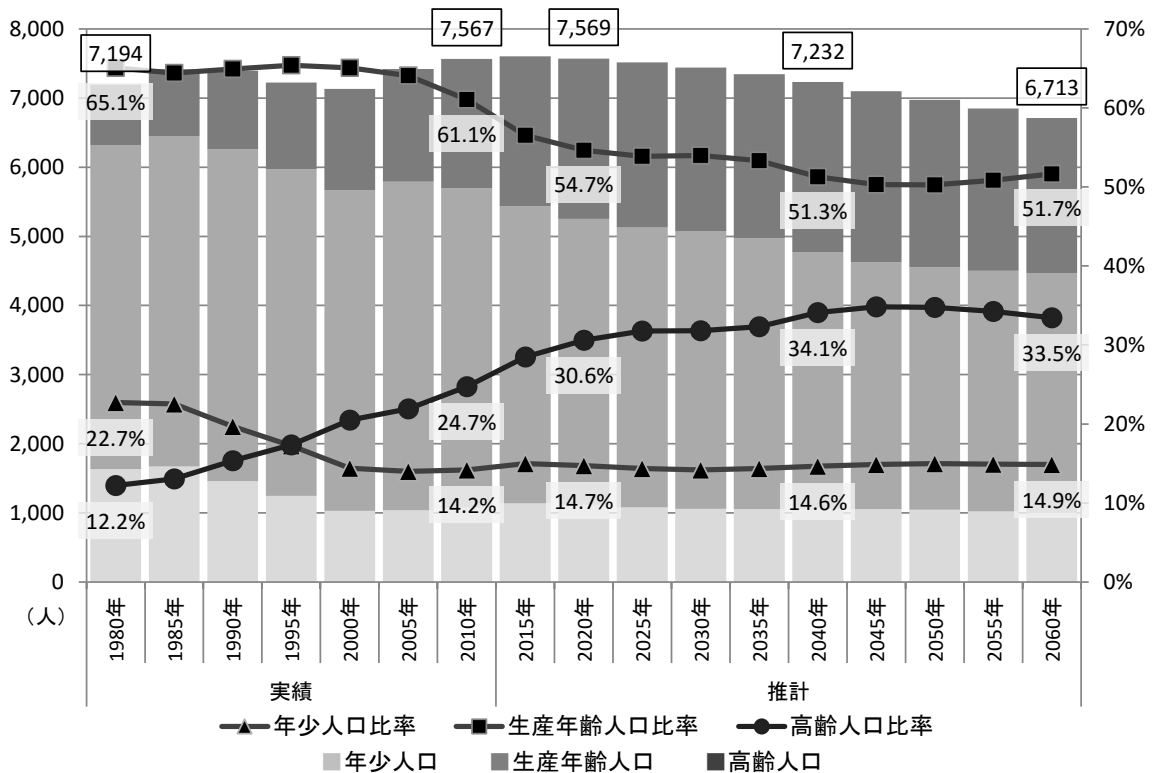
今から25年前の1980年、豊郷町の合計特殊出生率は2.23という高い水準でした。

ケース3の試算は、25年前の合計特殊出生率には及ばないものの、2040年（15年後）に合計特殊出生率が人口置換水準（人口が維持できる）の2.07となるよう今後努力し、その後は同水準を維持した場合のシミュレーションです。なお、純社会移動率は社人研による設定と同じとしています。

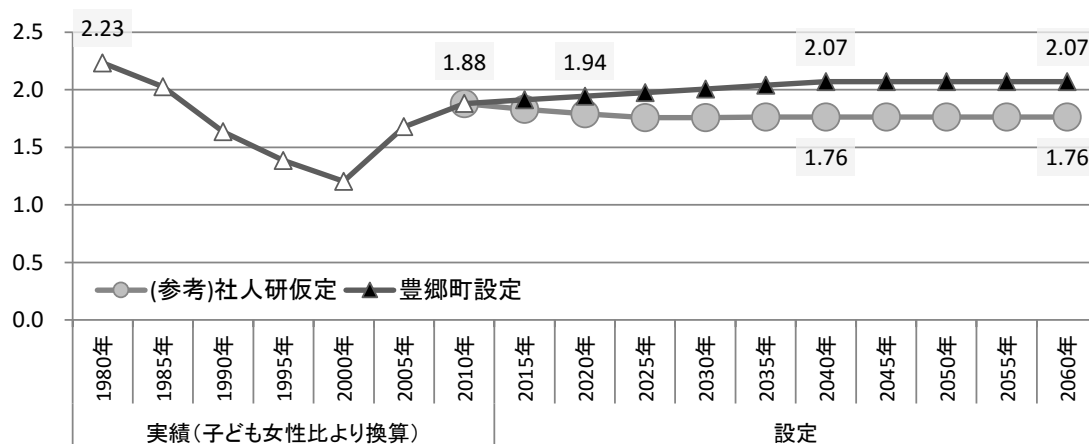
2040年に向けて、合計特殊出生率が徐々に上昇していくこととなりますが、その角度は1980年から2000年にかけての下降カーブよりも緩やかです。

人口は2020年に7,569人、2040年に7,232人、2060年に6,713人となり、減少傾向を示すものの、社人研による推計（ケース1）より減少に歯止めがかかります。

● 総人口および年齢3区分別人口比率



● 合計特殊出生率



● 推計結果

	総人口 (人)	年少 人口 (人)	生産年 齢人口 (人)	高齢 人口 (人)	年少 人口 比率	生産年 齢人口 比率	高齢 人口 比率	合計 特殊 出生率	
実績	1980年	7,194	1,634	4,682	878	22.7%	65.1%	12.2%	2.23
	1985年	7,414	1,670	4,776	968	22.5%	64.4%	13.1%	2.03
	1990年	7,396	1,457	4,803	1,136	19.7%	64.9%	15.4%	1.63
	1995年	7,222	1,246	4,723	1,253	17.3%	65.4%	17.3%	1.38
	2000年	7,132	1,028	4,642	1,462	14.4%	65.1%	20.5%	1.20
	2005年	7,418	1,038	4,753	1,627	14.0%	64.1%	21.9%	1.68
	2010年	7,567	1,074	4,621	1,872	14.2%	61.1%	24.7%	1.88
推計	2015年	7,603	1,139	4,299	2,165	15.0%	56.5%	28.5%	1.91
	2020年	7,569	1,115	4,137	2,317	14.7%	54.7%	30.6%	1.94
	2025年	7,514	1,081	4,047	2,386	14.4%	53.9%	31.8%	1.97
	2030年	7,442	1,057	4,019	2,366	14.2%	54.0%	31.8%	2.01
	2035年	7,347	1,055	3,917	2,375	14.4%	53.3%	32.3%	2.04
	2040年	7,232	1,059	3,708	2,465	14.6%	51.3%	34.1%	2.07
	2045年	7,100	1,056	3,572	2,473	14.9%	50.3%	34.8%	2.07
	2050年	6,974	1,045	3,505	2,424	15.0%	50.3%	34.8%	2.07
	2055年	6,848	1,021	3,483	2,345	14.9%	50.9%	34.2%	2.07
	2060年	6,713	999	3,468	2,246	14.9%	51.7%	33.5%	2.07

※1980～2010年の合計特殊出生率は豊郷町の子ども女性比実績から換算したもの

④ ケース 4：2040 年の合計特殊出生率を 2.07 とし、社会移動なし

●設定

【合計特殊出生率】=2040 年に 2.07 と仮定。

【生残率】=社人研の仮定値による。

【純社会移動率】=社会移動が起こらないと仮定。

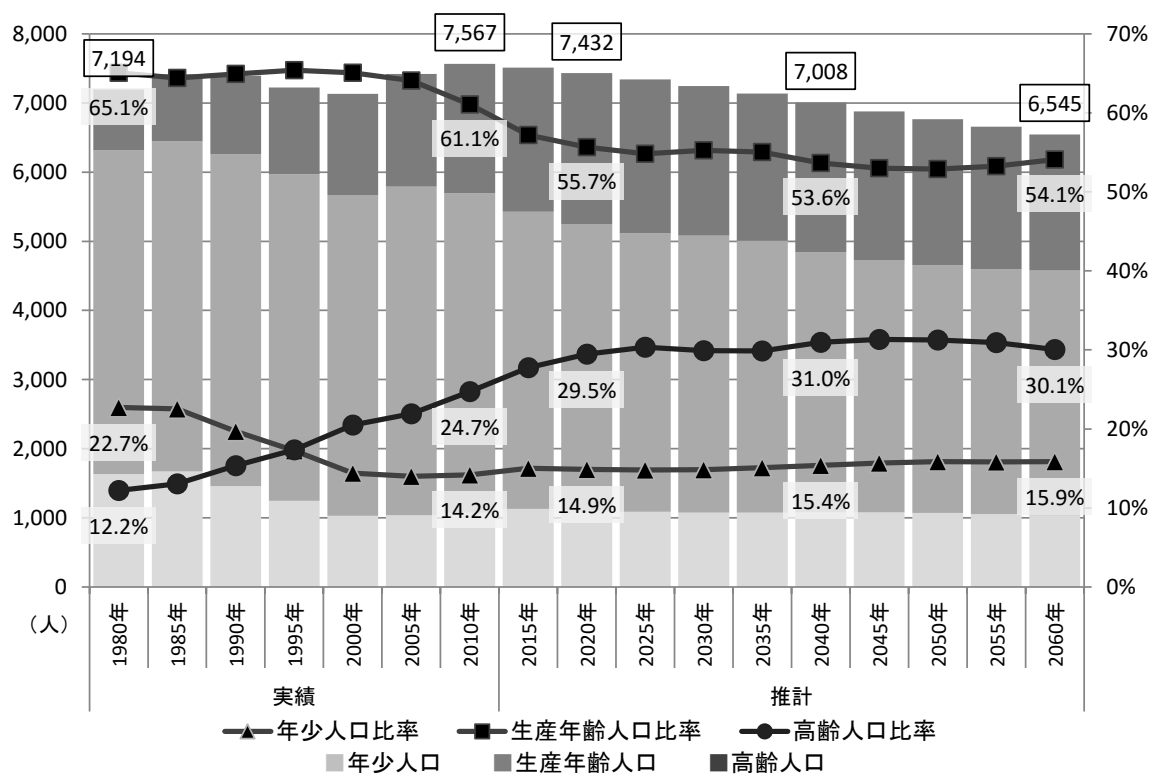
ケース3と同様、合計特殊出生率を 2040 年(15 年後)の 2.07 に向けて上昇させるとして、さらに社会移動が起こらないと仮定した場合のシミュレーションです。

豊郷町の社会移動は年によりプラス、マイナスがみられますが、もしこれがなかったらどうなるかをこのシミュレーションは示しています。

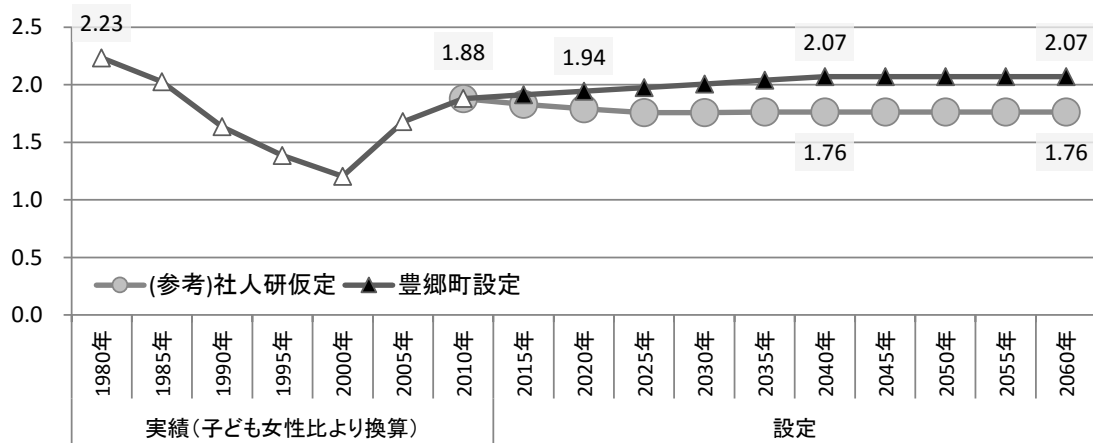
人口は 2020 年に 7,432 人、2040 年に 7,008 人、2060 年に 6,545 人となり、ケース 3 よりも人口減少が進む予想となりました。

豊郷町のこれまでの社会移動は 1997 年以降プラスとなる年が多く、出生率の向上を目指すとともに、引き続き豊郷町への人の流れをつくることの重要性がわかります。

● 総人口および年齢3区分別人口比率



● 合計特殊出生率



● 推計結果

	総人口 (人)	年少 人口 (人)	生産年 齢人口 (人)	高齢 人口 (人)	年少 人口 比率	生産年 齢人口 比率	高齢 人口 比率	合計 特殊 出生率	
実績	1980年	7,194	1,634	4,682	878	22.7%	65.1%	12.2%	2.23
	1985年	7,414	1,670	4,776	968	22.5%	64.4%	13.1%	2.03
	1990年	7,396	1,457	4,803	1,136	19.7%	64.9%	15.4%	1.63
	1995年	7,222	1,246	4,723	1,253	17.3%	65.4%	17.3%	1.38
	2000年	7,132	1,028	4,642	1,462	14.4%	65.1%	20.5%	1.20
	2005年	7,418	1,038	4,753	1,627	14.0%	64.1%	21.9%	1.68
	2010年	7,567	1,074	4,621	1,872	14.2%	61.1%	24.7%	1.88
推計	2015年	7,514	1,130	4,298	2,086	15.0%	57.2%	27.8%	1.91
	2020年	7,432	1,105	4,138	2,190	14.9%	55.7%	29.5%	1.94
	2025年	7,341	1,088	4,026	2,227	14.8%	54.8%	30.3%	1.97
	2030年	7,246	1,075	4,005	2,167	14.8%	55.3%	29.9%	2.01
	2035年	7,136	1,077	3,928	2,131	15.1%	55.0%	29.9%	2.04
	2040年	7,008	1,079	3,760	2,170	15.4%	53.6%	31.0%	2.07
	2045年	6,879	1,078	3,645	2,156	15.7%	53.0%	31.3%	2.07
	2050年	6,764	1,072	3,578	2,114	15.9%	52.9%	31.3%	2.07
	2055年	6,655	1,054	3,544	2,057	15.8%	53.2%	30.9%	2.07
	2060年	6,545	1,038	3,540	1,967	15.9%	54.1%	30.1%	2.07

※1980～2010年の合計特殊出生率は豊郷町の子ども女性比実績から換算したもの

⑤ ケース5：現出生率を維持し 2060 年に 2.07 を目標。社会移動を独自に仮定

●設定

【合計特殊出生率】=2030 年まで 1.83 を維持。2060 年 2.07 に向け上昇。

【生残率】=社人研の仮定値による。

【純社会移動率】=2010→2015 年の住民基本台帳移動数を基に仮定。

【2015 年人口】=2015 年国勢調査状況から仮定。

【ケース5の仮定について】

● 出生率

社人研の推計では出生率が徐々に低下していく予測となっています。一方、現在の豊郷町実績の推計では 2015 年の出生率は 1.83 となっており、これは直近の全国平均 1.42（厚生労働省平成 26 年人口動態統計月報年計）を上回り、国の長期ビジョンで示された国民希望出生率 1.8 も上回っています。その高い水準を低下させず 2030 年まで維持していくことと仮定します。

（次頁、参考：まち・ひと・しごと創生長期ビジョン抜粋を参照）

今後、若い世代の結婚・子育ての希望をかなえる施策を進め、2030 年以降、施策が効果を表すと想定します。2060 年には人口置換水準の 2.07 となるよう、2030 年の 1.83 を起点に段階的に向上させる設定としています。

● 社会移動

町の特性を加味した設定を行っています。社人研推計等で使用されている国勢調査人口では、町内の病院の入院患者の数が人口に含まれるため、独自推計として住民基本台帳の 2010 年→2015 年の各年齢・性別の増減数を基として社会移動の仮定値を設定しました。

2010 年→2015 年の期間、男性は 0～4 歳→5～9 歳、5～9 歳→10～14 歳、35～39 歳→40～44 歳、40～44 歳→45～49 歳、女性は男性に加えて 30～34 歳→35～39 歳の年齢層で町内への転入が見られました。これは近年の宅地・住宅開発によるものが考えられます。宅地・住宅開発が今後も同水準で継続する保証はないため、2030 年には宅地・住宅開発が一段落し、転入が収束すると想定し、2030 年以降の当該年齢層・性別の転入を 2010 年→2015 年実績の半数に設定しました。

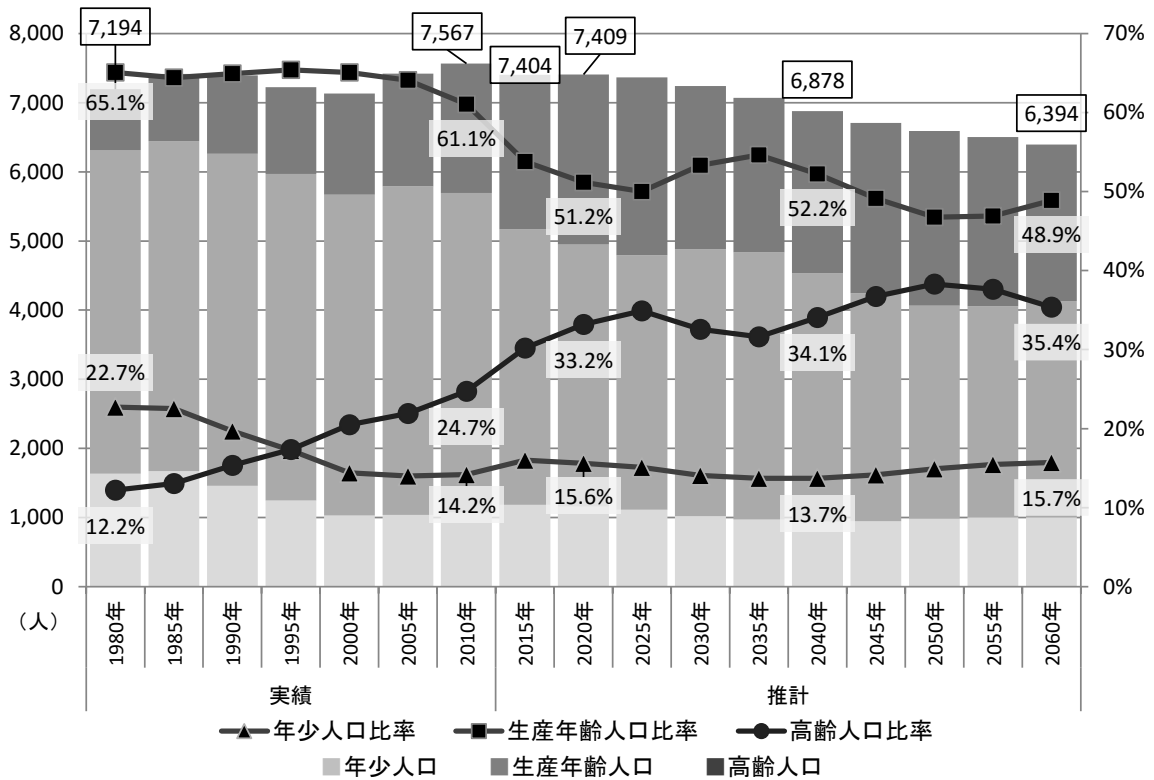
就職期から 30 代にかけての転出は就労に関連しての転出であると考えられるため、町内の産業振興を目指すとともに、町外で就労する人でも居住地として豊郷町を選択してもらえるよう住環境等の改善施策を講じることによって社会減を抑制する想定で、2030 年以降の当該年齢・性別の転出を 2010 年→2015 年実績の半数に設定しました。

● 2015 年の人口

社人研推計では 2015 年人口が 7,588 人と予測されていましたが、2015 年国勢調査の状況を町独自に速報集計したところ、2015 年時点の人口はその 97%程度で推移していると算定されました。より実勢に近い将来予測とするため、社人研推計の 2015 年人口に対し全年齢層で約 0.97 を乗じ、それを起点に将来の推計を行いました。

ケース5のシミュレーションでは、2015年の人口が7,404人となります。2020年に7,409人、2040年に6,878人、2060年に6,394人となり、ケース1の「社人研の推計に準拠した推計」と比べて、2020年、2040年時点では人口が少なくなりますが、2060年時点ではケース1よりも多くなる予想となりました。

● 総人口および年齢3区分別人口比率

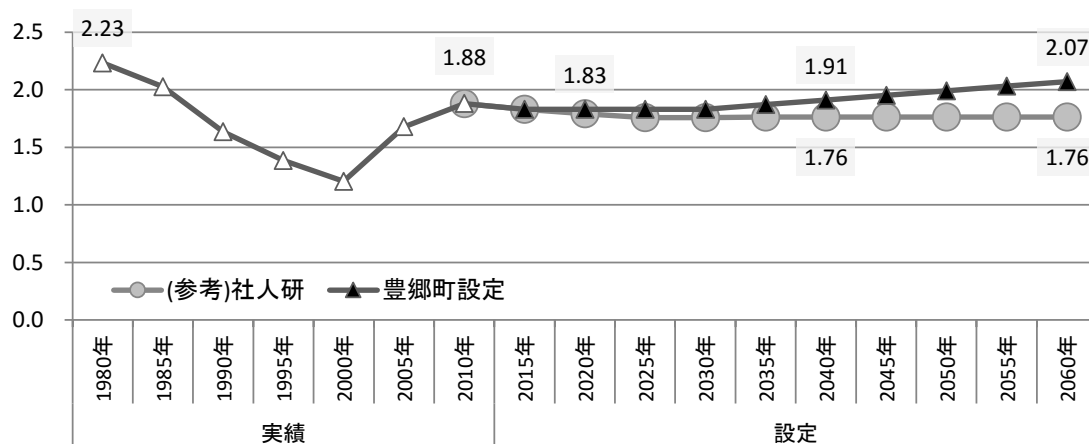


●参考: まち・ひと・しごと創生長期ビジョン(2014年12月27日閣議決定)(抜粋)

若い世代の結婚・子育ての希望が実現するならば、我が国の出生率は1.8程度の水準まで向上することが見込まれる。この希望が実現した場合の出生率(国民希望出生率)=1.8は、OECD諸国の半数近くの国が実現している水準である。(中略)我が国においてまず目指すべきは、若い世代の結婚・子育ての希望の実現に取り組み、出生率の向上を図ることである。

もとより、結婚や出産はあくまでも個人の自由な決定に基づくものであり、個々人の決定にプレッシャーを与えるようなことがあってはならない。

● 合計特殊出生率

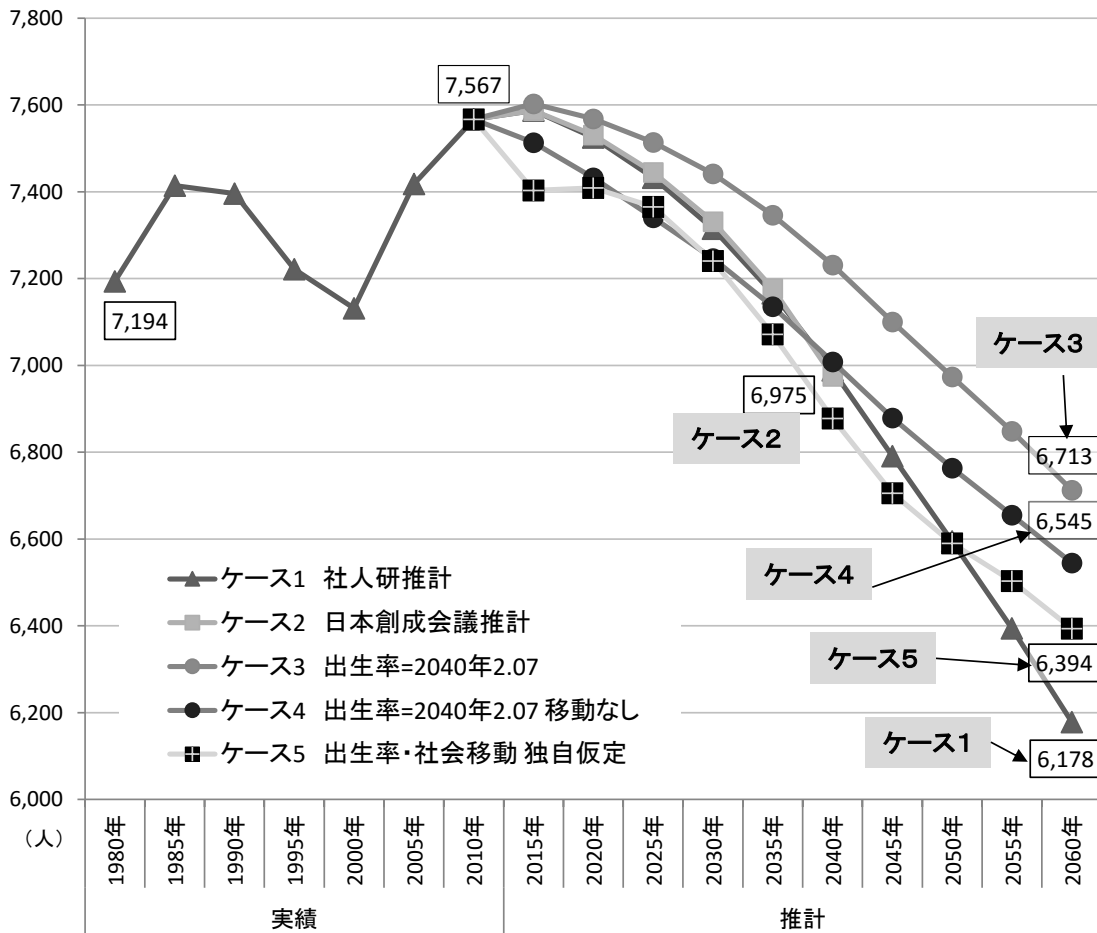


● 推計結果

	総人口 (人)	年少 人口 (人)	生産年 齢人口 (人)	高齢 人口 (人)	年少 人口 比率	生産年 齢人口 比率	高齢 人口 比率	合計 特殊 出生率	
実績	1980年	7,194	1,634	4,682	878	22.7%	65.1%	12.2%	2.23
	1985年	7,414	1,670	4,776	968	22.5%	64.4%	13.1%	2.03
	1990年	7,396	1,457	4,803	1,136	19.7%	64.9%	15.4%	1.63
	1995年	7,222	1,246	4,723	1,253	17.3%	65.4%	17.3%	1.38
	2000年	7,132	1,028	4,642	1,462	14.4%	65.1%	20.5%	1.20
	2005年	7,418	1,038	4,753	1,627	14.0%	64.1%	21.9%	1.68
	2010年	7,567	1,074	4,621	1,872	14.2%	61.1%	24.7%	1.88
推計	2015年	7,404	1,185	3,984	2,235	16.0%	53.8%	30.2%	1.83
	2020年	7,409	1,157	3,792	2,460	15.6%	51.2%	33.2%	1.83
	2025年	7,365	1,113	3,683	2,570	15.1%	50.0%	34.9%	1.83
	2030年	7,241	1,019	3,862	2,359	14.1%	53.3%	32.6%	1.83
	2035年	7,072	970	3,865	2,237	13.7%	54.6%	31.6%	1.87
	2040年	6,878	943	3,592	2,342	13.7%	52.2%	34.1%	1.91
	2045年	6,706	948	3,296	2,462	14.1%	49.1%	36.7%	1.95
	2050年	6,590	984	3,082	2,524	14.9%	46.8%	38.3%	1.99
	2055年	6,503	1,006	3,050	2,447	15.5%	46.9%	37.6%	2.03
	2060年	6,394	1,006	3,125	2,263	15.7%	48.9%	35.4%	2.07

※1980～2010年の合計特殊出生率は豊郷町の子ども女性比実績から換算したもの

⑥ 推計結果の比較



● 年齢3区分別等の推計結果

		総人口	0~14歳人口		15~64歳人口	65歳以上人口	20~39歳女性人口
			うち0~4歳人口				
2010年	現状値	7,567	1,074	374	4,621	1,872	883
2060年	ケース1 社人研推計	6,178	768	239	3,165	2,246	570
2040年	ケース2 日本創成会議推計*	6,975	875	275	3,570	2,530	555
2060年	ケース3 出生率=2040年2.07 社会移動あり	6,713	999	321	3,468	2,246	665
2060年	ケース4 出生率=2040年2.07 社会移動なし	6,545	1,038	340	3,540	1,967	697
2060年	ケース5 出生率・社会移動・人口 独自仮定	6,394	1,006	306	3,125	2,263	531

※注：日本創成会議推計値は2040年。他は2060年。

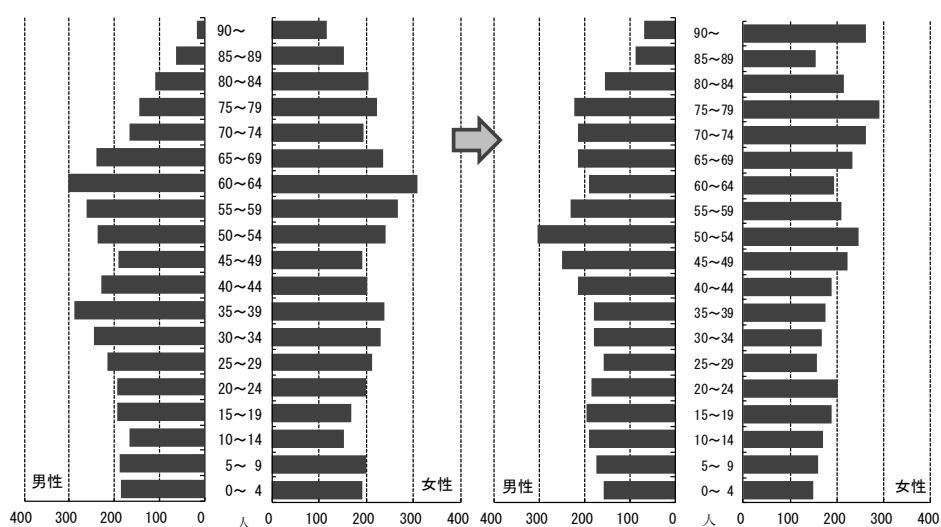
(2) 人口推計結果からの分析

① 性別年齢別人口構成の現状と15年後の予測

男女年齢別人口構成の現状(2010年)と推計ケース1(社人研推計)による15年後(2025年)の予測をみてみます。

今後、人口の重心がより高齢層に移行していくことが見込まれます。

● 豊郷町の人口ピラミッド 現状と将来の比較



現状(2010年)

将来(2025年)

(国勢調査、将来推計は社人研による推計)

② 人口減少段階の分析

人口減少段階は、「第1段階：高齢者の人口の増加(総人口の減少)」「第2段階：高齢者の人口の維持・微減」「第3段階：高齢者の人口の減少」の3つの段階を経て進行するとされています。

豊郷町における人口減少段階を、人口推計のケース1(社人研推計)によりみてみます。

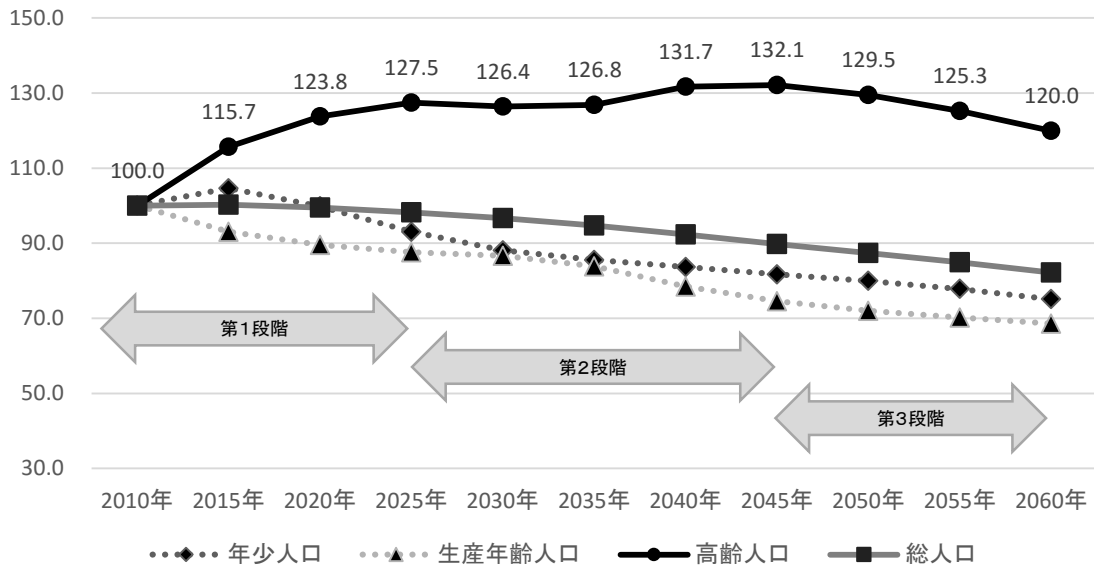
2010(平成22)年の人口を100とし、各年(5年ごと)推計の高齢人口、生産年齢人口、年少人口を指数化したのが次のグラフです。

豊郷町においては、2025年までは第1段階で高齢人口が増加、現在の大都市や中核市と同様の状態と言えます。

2025年から、高齢人口がピークとなる2045年までは多少の増減がありますがほぼ横ばいの第2段階とみられます。

2045年以降は継続的に高齢人口が減少する第3段階に入り、本格的な人口減少へと進みます。地方都市ではすでに第2段階、第3段階に進んでいる地域もあり、豊郷町は人口減少の進行は比較的緩やかであると考えられます。

● 人口減少段階



※指数:2010年=100.0
(社人研による推計より作成)

③ 将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響

推計結果から、豊郷町の将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度を分析してみます。

● 自然増減の影響度

ケース3は、人口移動に関する仮定をケース1(社人研推計)と同様にして、出生に関する仮定を変えたものです。ケース3の2040年の推計総人口をケース1(社人研推計準拠)の同年の推計総人口で除して得られる数値は、仮に出生率が人口置換水準(2.07と設定)まで上昇する場合に人口がどうなるかを表すこととなり、その値が大きいほど出生の影響度が大きいことを意味します。

自然増減の影響度	計算方法	影響度
	ケース3の2040年推計人口=7,232(人) ケース1の2040年推計人口=6,989(人) $\Rightarrow 7,232(人) \div 6,989(人) = 103.5\%$	2

● 社会増減の影響度

ケース4は、出生に関する仮定をケース3と同様にして、人口移動に関する仮定を変えたものです。ケース4の2040年の推計総人口をケース3の同年の推計総人口で除して得られる数値は、仮に人口移動が均衡した場合（移動が0となった場合）に人口がどうなるかを表すこととなり、その値が大きいほど人口移動の影響度が大きいことを意味します。

社会増減の影響度	計算方法	影響度
	ケース4の2040年推計人口=7,008(人) ケース3の2040年推計人口=7,232(人) $\Rightarrow 7,008(人) / 7,232(人) = 96.9\%$	1

以上でみると、豊郷町においては自然増減の影響度が高いと考えられます。しかし、次に示すように社会移動を0としたケース4の方が子育て期の女性人口の減少が抑えられる予想となることから、人口減少を抑えるためには、自然増減・社会増減の両面に対する対策に適切に取り組む必要があると考えられます。

<p>●参考：自然増減・社会増減の影響度の5段階評価</p> <p>上記では、自然増減・社会増減の影響度を国の示した例示に沿って以下の5段階に整理しています。</p> <p>・自然増減の影響度： 「1」=100%未満、「2」=100~105%、「3」=105~110%、「4」=110~115%、「5」=115%以上の増加</p> <p>・社会増減の影響度： 「1」=100%未満、「2」=100~110%、「3」=110~120%、「4」=120~130%、「5」=130%以上の増加</p>

● 将来人口推計における2010年→2060年の増減率比較

将来人口推計における今後の増減率を世代等ごとに比較してみます。ケース3（社会移動あり）の場合、子育て期にあたる20~39歳女性人口や0~4歳人口の減少率はケース4（社会移動なし）よりも大きくなると予想されています。出生率を現状のまま維持し、将来的には向上させると仮定したケース5では年少人口、生産年齢人口の減少率が社人研推計よりも少なくなります。

● 増減率

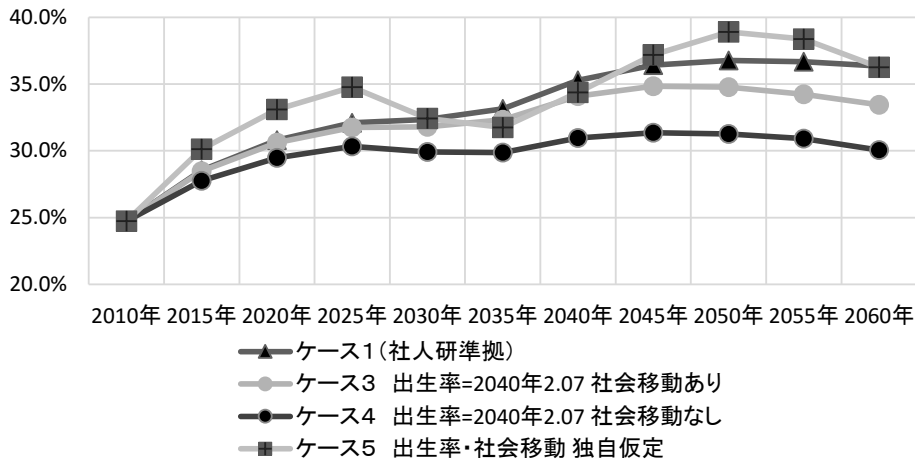
		総人口	0~14歳人口	うち0~4歳人口	15~64歳人口	65歳以上人口	20~39歳女性人口
2010年 → 2060年 増減率	ケース1 社人研推計	-18.4%	-28.5%	-36.0%	-31.5%	20.0%	-35.4%
	ケース3 出生率=2040年2.07 社会移動あり	-11.3%	-7.0%	-14.1%	-25.0%	20.0%	-24.7%
	ケース4 出生率=2040年2.07 社会移動なし	-13.5%	-3.4%	-9.1%	-23.4%	5.1%	-21.0%
	ケース5 出生率・社会移動・人口 独自仮定	-15.5%	-6.3%	-18.2%	-32.4%	20.9%	-39.9%

※ケース2 日本創成会議推計の数値は2040年時点のため除外

④ 高齢人口比率の変化

将来人口推計のケース1、ケース3～5について、高齢人口比率を比較してみます。ケース1に比べて、合計特殊出生率が上昇すると仮定したケース3、ケース4では将来にわたって高齢人口比率が低くなります。高齢層の転入超過、若い層の転出という実績から推計されたケース1に比べ、若い層の転出を減少させたケース5では一時的に高齢人口比率が下がりますが、その後上昇し、長期ではケース1と同等の水準となります。

● 高齢人口比率の比較

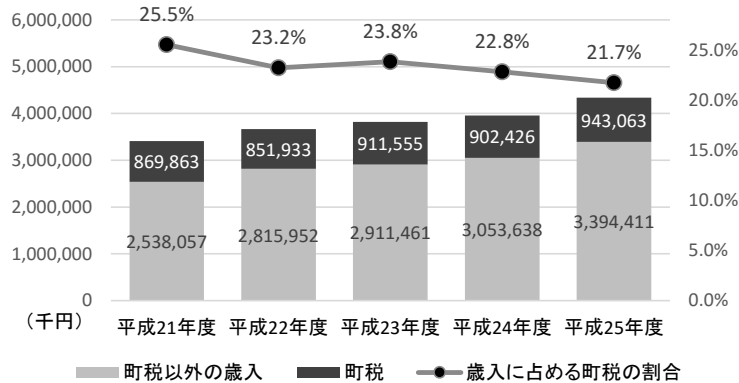


(3) 人口の変化が地域の将来に与える影響

① 財政状況への影響

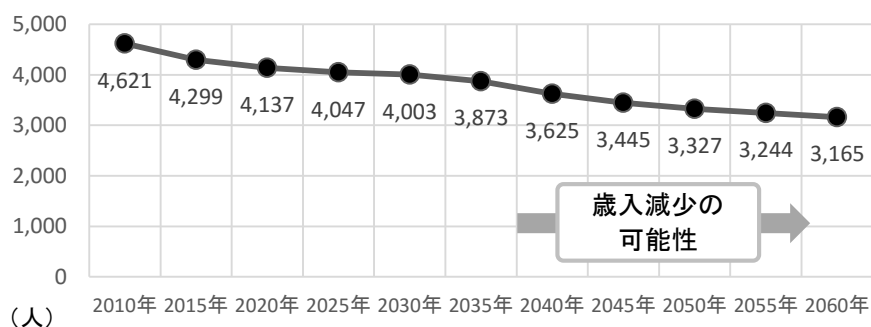
近年の町の歳入と町税の推移は以下のとおりとなっています。町税は歳入の基礎となるものですが、今後は、生産年齢人口の減少が予想されることからその影響が考えられます。

● 歳入に占める町税の割合



(滋賀県 市町財政概況普通会計 各市町決算カードより)

● 生産年齢(15歳～64歳)人口の予測



(社人研推計)

② 保育・教育への影響

豊郷町の就学前児童の教育・保育施設利用者は、2015年(平成27年)5月1日時点で291人。小学生は466人、中学生は223人となっています。現在の施設設置状況が利用者数に対して適正なものと考えた場合、今後は、年少人口の減少が予想されていることから、保育・教育施設の運営・維持に関して調整が必要になることも考えられます。

● 就学前児童の教育・保育の状況

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	総数
愛里保育園	1	10	10	14	22	18	75
崇徳保育園	3	14	16	14	21	24	92
豊郷町幼稚園				41	45	38	124
合計	4	24	26	69	88	80	291

(人)(2015年5月1日時点)

● 小学校の状況

	学級数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	総数
豊郷小学校	12	46	40	38	43	42	43	2	254
日栄小学校	8	45	34	27	28	41	33	4	212
合計	20	91	74	65	71	83	76	6	466

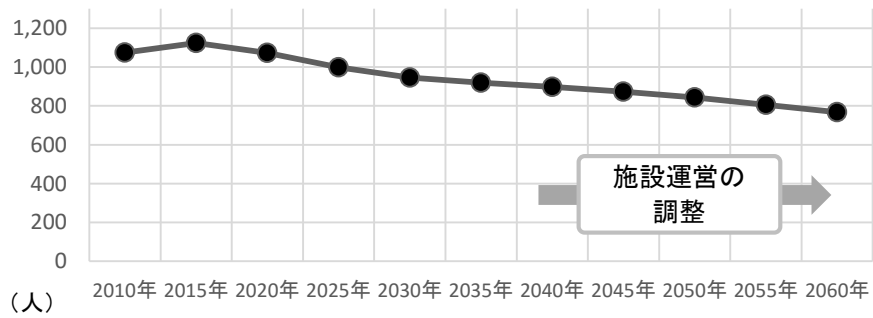
(人)(2015年5月1日時点)

● 中学校の状況

	学級数	1年	2年	3年	特別支援4組	特別支援5組	総数
豊日中学校	10	79	64	75	4	1	223
合計	10	79	64	75	4	1	223

(人)(2015年5月1日時点)

● 年少人口(0歳～14歳)の予測



(社人研推計)

③ 介護保険等への影響

町の国民健康保険事業等の決算状況は以下のとおりとなっています。高齢人口は中期にかけて緩やかに増加し、その後は減少に転じる予想となっており、「後期高齢者医療事業」「介護保険事業」等の会計に今後変動が考えられます。

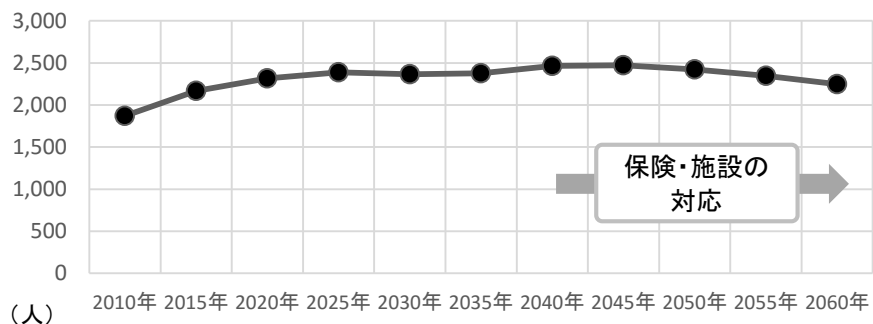
また、高齢者層の人口の増減がただちに介護保険の認定者数の増減に結びつくものではありませんが、施設の運営・維持などに影響が及ぶことも考えられます。

● 2013(平成 25)年度市町財政概況、公営事業の状況(抜粋)

国民健康保険事業会計 (事業勘定)		後期高齢者医療事業会計		介護保険事業会計 (保険事業勘定)	
歳入	867,247 千円	歳入	54,980 千円	歳入	543,326 千円
歳出	854,716 千円	歳出	54,980 千円	歳出	523,157 千円
加入世帯数	1,150 世帯	被保険者数	854 人		
被保険者数	2,162 人				

(滋賀県 市町財政概況普通会計 2013 年度 各市町決算カードより)

● 高齢人口(65歳～)の予測



(社人研推計)

第3章 人口の将来展望

(1) 現状のまとめ

- 総人口

1980（昭和55）年の7,194人から2010（平成22）年の7,567人まで増減を繰り返しながら徐々に増加しています。その間、滋賀県は全国を大きく上回る増加傾向で、豊郷町の増加の幅は全国を少し下回りました。将来は全国・県・豊郷町とも人口減少の予測ですが、豊郷町は全国よりも緩やかな減少となる予測（社人研推計）です。

- 人口構成

1980（昭和55）年から2010（平成22）年の推移で少子高齢化が進んでいます。2010年の高齢人口比24.7%は、全国平均の22.8%よりもわずかに上回ります。

- 合計特殊出生率

2008年→2012年の合計特殊出生率は1.76で、県内市町第3位の水準です。同時期の全国の数値1.38も大きく上回っています。

- 社会移動

1997年以降社会増・減を繰り返し、現在までの増減のトータルではプラス254人（現人口の3%超）となります。最近の移動状況は県外よりも県内の移動の方が多くみられます。

(2) 人口の将来展望

① 将来展望

豊郷町では、国の長期ビジョンおよび滋賀県の人口の将来展望を勘案し、目指すべき将来の方向として次の考えのもと将来人口を展望します。

● 出生の向上

短期・中期的には現在の高い出生率の水準を維持。長期的には向上を目指す。

現在の出生率（近似値）1.83 を低下させず 2030 年まで維持する。

2030 年以降は、2060 年に国の長期ビジョンにおける人口置換水準の 2.07 となることを目指す。

● 産業振興、住環境向上等による流出抑制と転入の維持

短期・中期的には新築・宅地開発によるファミリー層の転入が一段落すると思われる。

一方、若年層の転出がみられることから、いかにして「転出を減らし、転入を減らさぬようにするか」が課題となる。

町の原風景を形づくる農業を中心に產品の高付加価値化、担い手の支援、6 次化を進めるなど産業の振興を図る必要がある。

3 世代の同居や近居を奨励する、地域全体で高齢者を支えるなどにより定住化を図り、空き家対策、住宅改修への援助等で転入を促進する。

また、地域資源を活用した観光振興、暮らす町としての豊郷町の魅力 PR など、町のファンを増やし、交流人口の増加から豊郷町への人の流れを創出する。

結婚・出産・子育てを応援し、次代を担う子どもの教育も充実させるとともに、町内の交流や安心な暮らしづくりを進める。

これらの総合的な効果として、若年層の転出を 2030 年以降は過去実績の半数程度に抑制、転入は過去実績の半数程度を確保・継続させる。

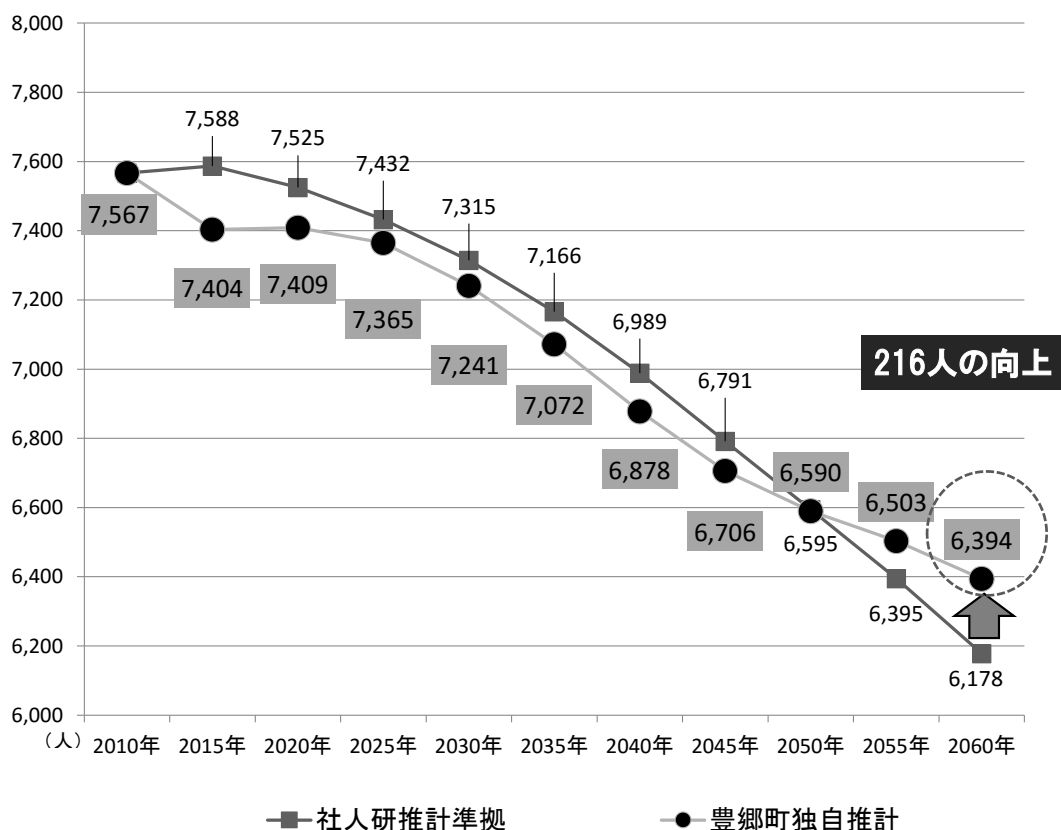
上記の考え方に基づき推計を行ったものが第 2 章（1）将来人口推計の「ケース 5」の試算となります。その算出による将来人口を豊郷町の人口の将来展望とします。

豊郷町における、短期(2020年)・中期(2040年)・長期(2060年)の人口展望				
	総人口	0～14 歳人口 (割合)	15～64 歳人口 (割合)	65 歳以上人口 (割合)
短期 (2020年)	7,409 人	1,157 人 (15.6%)	3,792 人 (51.2%)	2,460 人 (33.2%)
中期 (2040年)	6,878 人	943 人 (13.7%)	3,592 人 (52.2%)	2,342 人 (34.1%)
長期 (2060年)	6,394 人	1,006 人 (15.7%)	3,125 人 (48.9%)	2,263 人 (35.4%)

② 長期的な見通し

将来展望における目標を達成することにより、出生率と社会移動が改善され、2060年の推計人口は、社人研推計と比較して216人向上することが見込まれます。

● 豊郷町独自推計による人口の長期的な見通し



③ 総合戦略における基本目標について

上記の将来展望で示した目指すべき将来の方向は、本人口ビジョンでまとめた町の現状や、総合戦略策定の参考とすべく実施した町民・町内事業所アンケート等を勘案したものです。本人口ビジョンから導く課題の整理、基本目標については、第2部「総合戦略」に掲載します。